

第 I 部 大学院人文社会系研究科・文学部の概況

1 大学院人文社会系研究科・文学部の沿革と機構

(1) 沿革

a 学部の沿革(年譜)

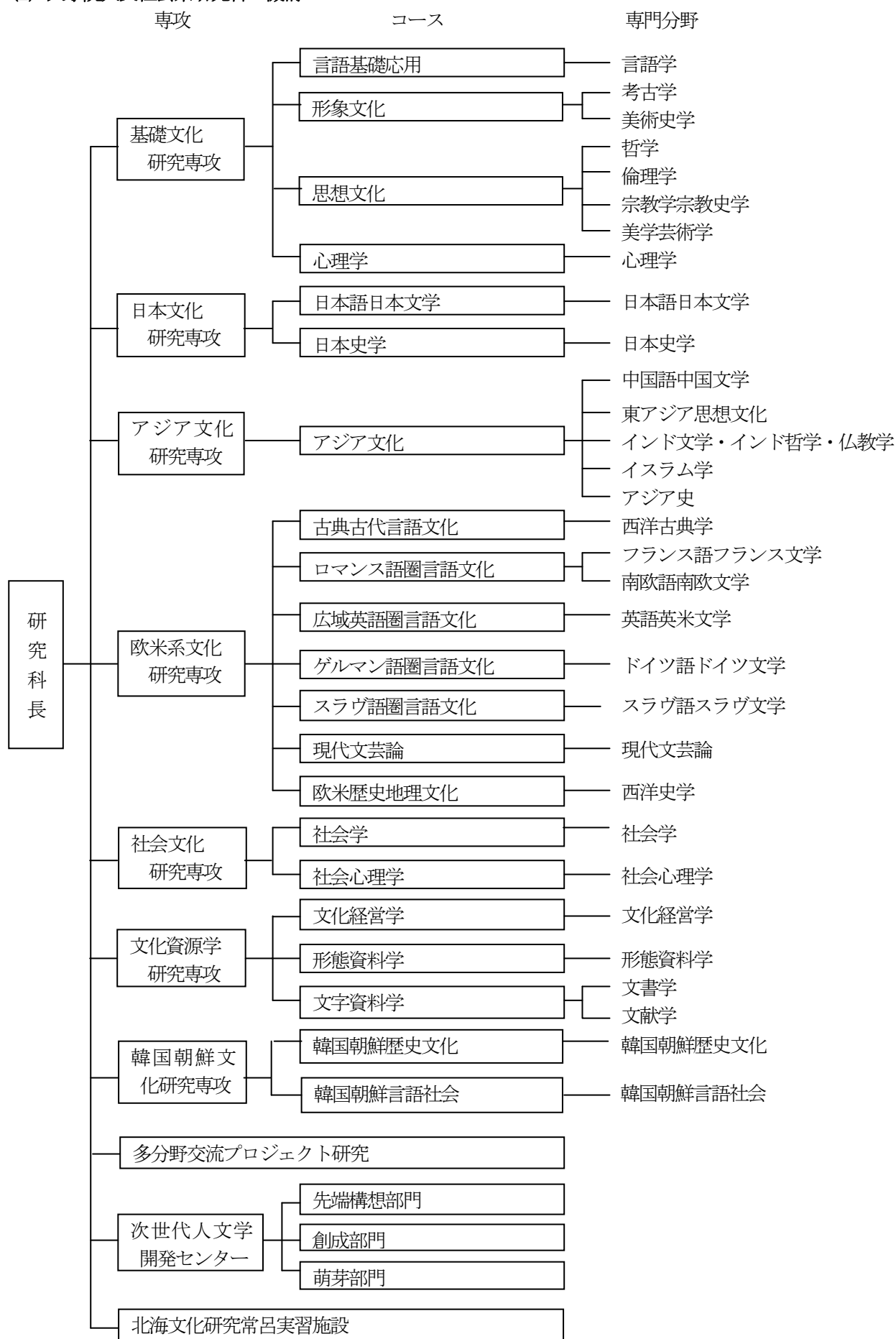
東京大学	文学部	明治10(1877), 4・東京大学設立	(2学科) 第一 史学, 哲学及政治学科 第二 和漢文学科
		明治12(1879), 9 《明治13(1880), 7・第1回卒業生8名》	「第一 史学, 哲学及政治学科」を『第一哲学政治学及理財学科』とする
		明治14(1881), 9	(3学科) 第一 哲学科 第二 政治学及理財学科 第三 和漢文学科
		明治18(1885), 12	(3学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 (政治学, 理財学は法政学部へ編入 法政学部は翌年法科大学となる)
帝国大学	文科大学	明治19(1886), 3・帝国大学令	(4学科) 『第四 博言学科』を増設
		明治20(1887), 9	(7学科) 第一 哲学科 第二 和文学科 第三 漢文学科 第四 史学科 第五 博言学科 第六 英文学科 第七 独逸文学科
		明治22(1889), 6	(8学科) 『国史科』を増設 「和文学科」を『国文学科』とする 「漢文学科」を『漢学科』とする
		明治22(1889), 12	(9学科) 『仏蘭西文学科』を増設
		明治28(1895), 4	史料編纂掛設置
		明治33(1900), 6	「博言学科」を『言語学科』とする
		明治37(1904), 9	(3学科) 哲学科 史学科 文学科
東京帝国大学	文学部	明治43(1910), 9	(3学科 19専修学科) 第一 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 美学, 教育学, 社会学 第二 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学 第三 文学科—国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 言語学
		大正6(1917), 9	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学」を『美学美術史』とする
		大正8(1919), 4・帝国大学令改定(大正7(1918), 12・大学令制定にともない)	(19学科)
		大正8(1919), 9	国文学, 国史学, 支那哲学, 支那文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学宗教史, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		《大正10(1921), 4・学年暦変更「9月~7月」を『4月~3月』とする》	史料編纂掛を史料編纂所と改称する
		昭和4(1929), 7	(17学科) 「支那哲学」「支那文学」を『支那哲学支那文学』とする 「印度哲学」「梵文学」を『印度哲学梵文学』とする
		昭和7(1932), 4 《昭和18(1943), 12・学徒出陣》	(3学科 21専修科) 哲学科—哲学, 支那哲学, 印度哲学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学, 美術史学 史学科—国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 文学科—言語学, 国文学, 支那文学, 梵文学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学
		昭和21(1946), 3 《昭和21(1946), 4・女子学生9名入学》	能率研究室 航空研究所より移管
		昭和23(1948), 4	「支那哲学」を『中国哲学』とする 「支那文学」を『中国文学』とする
		昭和24(1949), 4	(19学科) 国文学, 国史学, 中国哲学, 中国文学, 東洋史学, 西洋史学, 哲学, 印度哲学梵文学, 心理学, 倫理学, 宗教学, 社会学, 教育学, 美学美術史, 言語学, 英吉利文学, 独逸文学, 仏蘭西文学, 考古学
東京大学		昭和25(1950), 4	「宗教学」を『宗教学宗教史』とする 「美学美術史」を『美学美術史学』とする 史料編纂所が文学部附属から東京大学附置研究所となる
		昭和26(1951), 4	(18学科)
		《昭和26(1951), 4・教養	「教育学科」を廃止する

東京大学 文学部	学部より第1回新制学生進学》	(昭和24年教育学部設立にともなう措置)
	昭和38(1963), 4	(4類 21専修課程) 第一類(文 化 学)－哲学, 中国哲学, 印度哲学, 印度文学, 倫理学, 宗教学, 宗教史学, 美学, 美術史学 第二類(史 学)－国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学 第三類(語学文学)－言語学, 国語国文学, 中国語中国文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フランス語フランス文学, 西洋近代語近代文学, 西洋古典学 第四類(心理学, 社会学)－心理学, 社会学
	昭和39(1964), 4	語学ラボラトリー設置
	昭和41(1966), 4	文化交流研究施設設置
	昭和42(1967), 4	第一類「美学」を『美学芸術学』とする
	昭和43(1968), 4	「第一類 美術史学」を『第二類 美術史学』とする
	昭和47(1972), 4	(4類 22専修課程) 『第三類 ロシア語ロシア文学』を増設
	昭和48(1973), 4	北海文化研究常呂実習施設設置
	昭和49(1974), 4	(4類 23専修課程) 『第四類 社会心理学』を増設
	昭和50(1975), 4	(4類 24専修課程) 第三類「国語国文学」を『国語学』『国文学』とする 「外国人留学生相談室」を開設
	昭和54(1979), 4	(4類 25専修課程) 『第三類 イタリア語イタリア文学』を増設 「第四類(心理学, 社会学)」を『第四類(行動学)』とする
	昭和57(1982), 4	(4類 26専修課程) 『第一類 イスラム学』を増設
	昭和59(1984), 9	語学ラボラトリーを視聴覚教育センターと改称する
	昭和60(1985), 4	「外国人留学生相談室」を「国際交流室」に改称する
	昭和63(1988), 4	(4類 27専修課程) 第一類「印度哲学・印度文学」を『第一類 印度哲学』『第三類 印度語印度文学』とする
	平成4(1992), 4	能率研究室を認知科学研究室に改称する
	平成5(1993), 4	文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門
	平成6(1994), 4	(4類 26専修課程) 第一類「中国哲学」, 「印度哲学」を『第一類 中国思想文化学』, 『第一類 インド哲学仏教学』に, 第二類「国史学」を『第二類 日本史学』に, 第三類「印度語印度文学」, 「ロシア語ロシア文学」, 「イタリア語イタリア文学」を『第三類 インド語インド文学』, 『第三類 スラヴ語スラヴ文学』, 『第三類 南欧語南欧文学』とし, 第三類「国語学」, 「国文学」を『第三類 日本語日本文学』とする 文化交流研究施設の拡充 基礎理論部門 朝鮮文化部門 東洋諸民族言語文化部門
	平成7(1995), 4	第一類(文 化 学)を『思想文化学科』に改称 第二類(史 学)を『歴史文化学科』に改称 第三類(語学文学)を『言語文化学科』に改称 第四類(行 動 学)を『行動文化学科』に改称
	平成19(2007), 4	思想文化学科「宗教学・宗教史学」を『宗教学宗教史学』に改称 言語文化学科「西洋近代語近代文学」を『現代文芸論』に改称 (現在4学科 26専修課程) 思想文化学科－哲学, 中国思想文化学, インド哲学仏教学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学, イスラム学 歴史文化学科－日本史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 美術史学 言語文化学科－言語学, 日本語日本文学, 中国語中国文学, インド語インド文学, 英語英米文学, ドイツ語ドイツ文学, フランス語フランス文学, スラヴ語スラヴ文学, 南欧語南欧文学, 現代文芸西洋古典学 行動文化学科－心理学, 社会心理学, 社会学

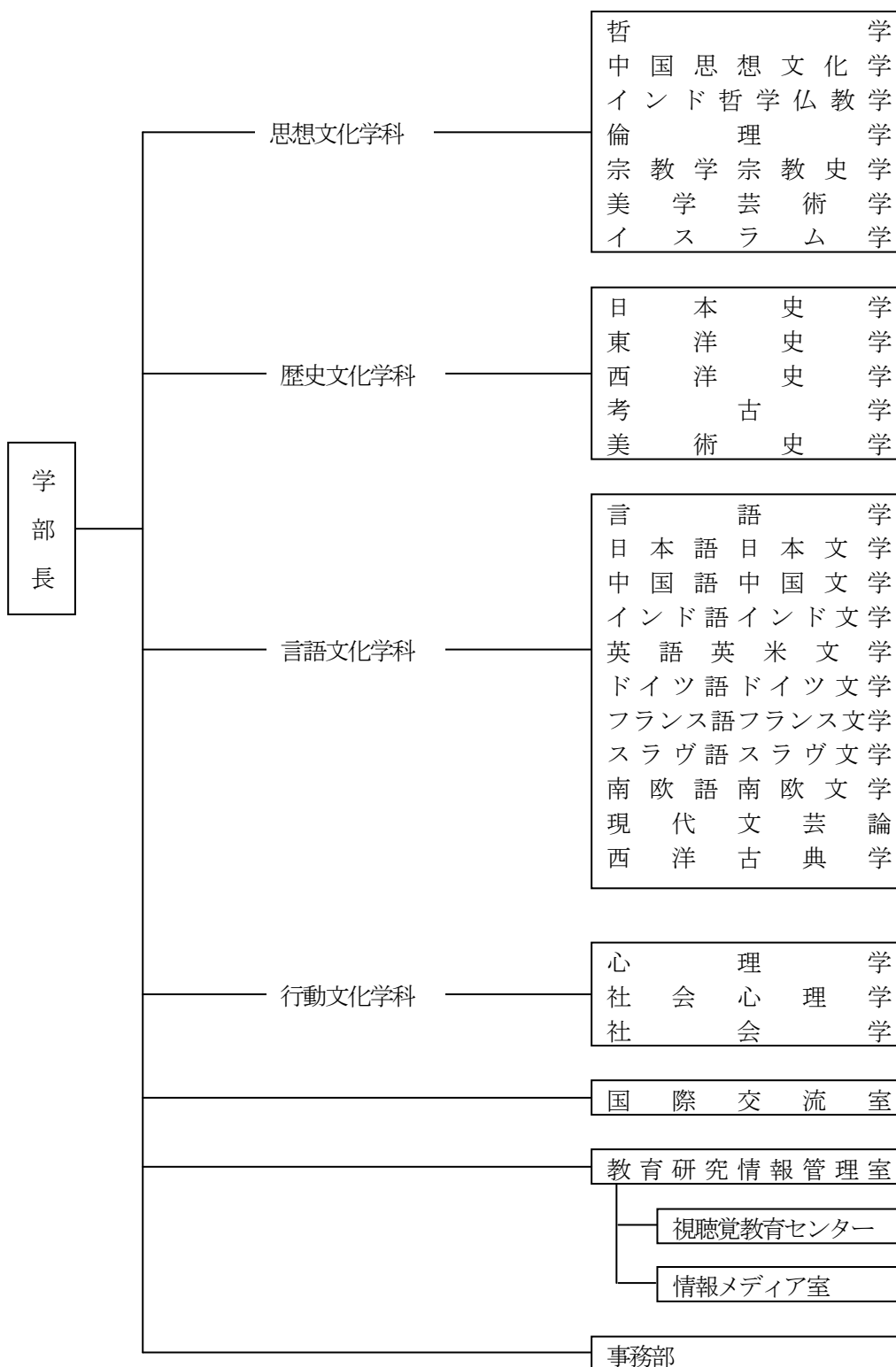
b 人文社会系研究科の沿革(年譜)

人文科学研究科	昭和28(1953), 4 東京大学大学院(新制)設立	人文科学研究科(24専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学美術史学, 心理学, 教育学, 教育心理学, 学校教育学, 教育行政学, 体育学
	昭和38(1963), 4 研究科の改編にともない, 教育学研究科, 法学政治学研究科, 経済学研究科, 社会学研究科設立	人文科学研究科(19専門課程) 国語国文学, 中国語中国文学, 西洋古典学, 英語英文学, 独語独文学, 仏語仏文学, 比較文学比較文化, 言語学, 国史学, 東洋史学, 西洋史学, 考古学, 哲学, 中国哲学, 印度哲学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学美術史学, 心理学 社会学研究科(2専門課程) 国際関係論, 社会学
	昭和39(1964), 4	人文科学研究科(20専門課程) 美学美術史学専門課程を改組し, 『美学専門課程』, 『美術史学専門課程』設置
	昭和40(1965), 4	社会学研究科(3専門課程) 『文化人類学専門課程』設置
	昭和42(1967), 4	『美学専門課程』を『美学芸術学専門課程』に改称
	昭和49(1974), 4	人文科学研究科(21専門課程) 『露語露文学専門課程』設置
	昭和51(1976), 4	社会学研究科(4専門課程) 『社会心理学専門課程』設置
	昭和58(1983), 4	人文科学研究科(20専門課程) 比較文学比較文化専攻を総合文化研究科へ振替 社会学研究科(3専門課程) 国際関係論専門課程を総合文化研究科へ振替
	昭和60(1985), 4	印度哲学専門課程を『印度哲学印度文学専門課程』に改称
	昭和62(1987), 4	専門課程を専攻に変更
昭和63(1988), 4	社会学研究科(2専攻) 文化人類学専攻を総合文化研究科に振替	
東京大学大学院	平成7(1995), 4 人文科学研究科と社会学研究科の合流による再編にともない, 人文科学研究科の『人文社会系研究科』への名称変更, 社会学研究科の廃止	人文社会系研究科(5専攻) 基礎文化研究専攻 日本文化研究専攻 アジア文化研究専攻 欧米系文化研究専攻 社会文化研究専攻 多分野交流プロジェクト研究の設置
	平成12(2000), 4	人文社会系研究科(6専攻) 『文化資源学研究専攻』設置
	平成14(2002), 4	人文社会系研究科(7専攻) 『韓国朝鮮文化研究専攻』設置
	平成16(2004), 4	文化交流研究施設 東洋諸民族言語文化部門を 『基礎文化研究専攻・言語応用コース・言語動態学』に改組
	平成17(2005), 4	文化交流研究施設を改組し, 『次世代人文学開発センター』を設置
	平成19(2007), 4	欧米系文化研究専攻内に現代文芸論コース・現代文芸論専門分野を設置
	平成21(2009), 4	『基礎文化研究専攻 言語基礎コース 言語学専門分野』と『基礎文化研究専攻 言語応用コース 言語動態学専門分野』を統合し, 『基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース 言語学専門分野』に改組 アジア文化研究専攻を改組し, 『アジア文化研究専攻 アジア文化コース 中国語中国文学専門分野, 東アジア思想文化, インド文学・インド哲学・仏教学, イスラム学, アジア史』を設置
人文社会系研究科	(現在 7専攻) 基礎文化研究専攻 言語基礎応用コース(言語学) 形象文化コース(考古学, 美術史学) 思想文化コース(哲学, 倫理学, 宗教学宗教史学, 美学芸術学) 心理学コース(心理学) 日本文化研究専攻 日本語日本文学コース(日本語日本文学) 日本史学コース(日本史学) アジア文化研究専攻 アジア文化コース(中国語中国文学, 東アジア思想文化, インド文学・インド哲学・仏教学, イスラム学, アジア史) 欧米系文化研究専攻 古典古代言語文化コース(西洋古典学) ロマンス語圏言語文化コース(フランス語フランス文学, 南欧語南欧文学) 広域英語圏言語文化コース(英語英米文学) ゲルマン語圏言語文化コース(ドイツ語ドイツ文学) スラヴ語圏言語文化コース(スラヴ語スラヴ文学) 現代文芸論コース(現代文芸論) 欧米歴史地理文化コース(西洋史学) 社会文化研究専攻 社会学コース(社会学) 社会心理学コース(社会心理学) 社会情報学コース(社会情報学) 文化資源学研究専攻 文化経営学コース(文化経営学) 形態資料学コース(形態資料学) 文字資料学コース(文書学, 文献学) 韓国朝鮮文化研究専攻 韓国朝鮮歴史社会コース(韓国朝鮮歴史社会) 韓国朝鮮言語思想コース(韓国朝鮮言語思想) 北東アジア文化交流コース(北東アジア文化交流) 多分野交流プロジェクト研究	

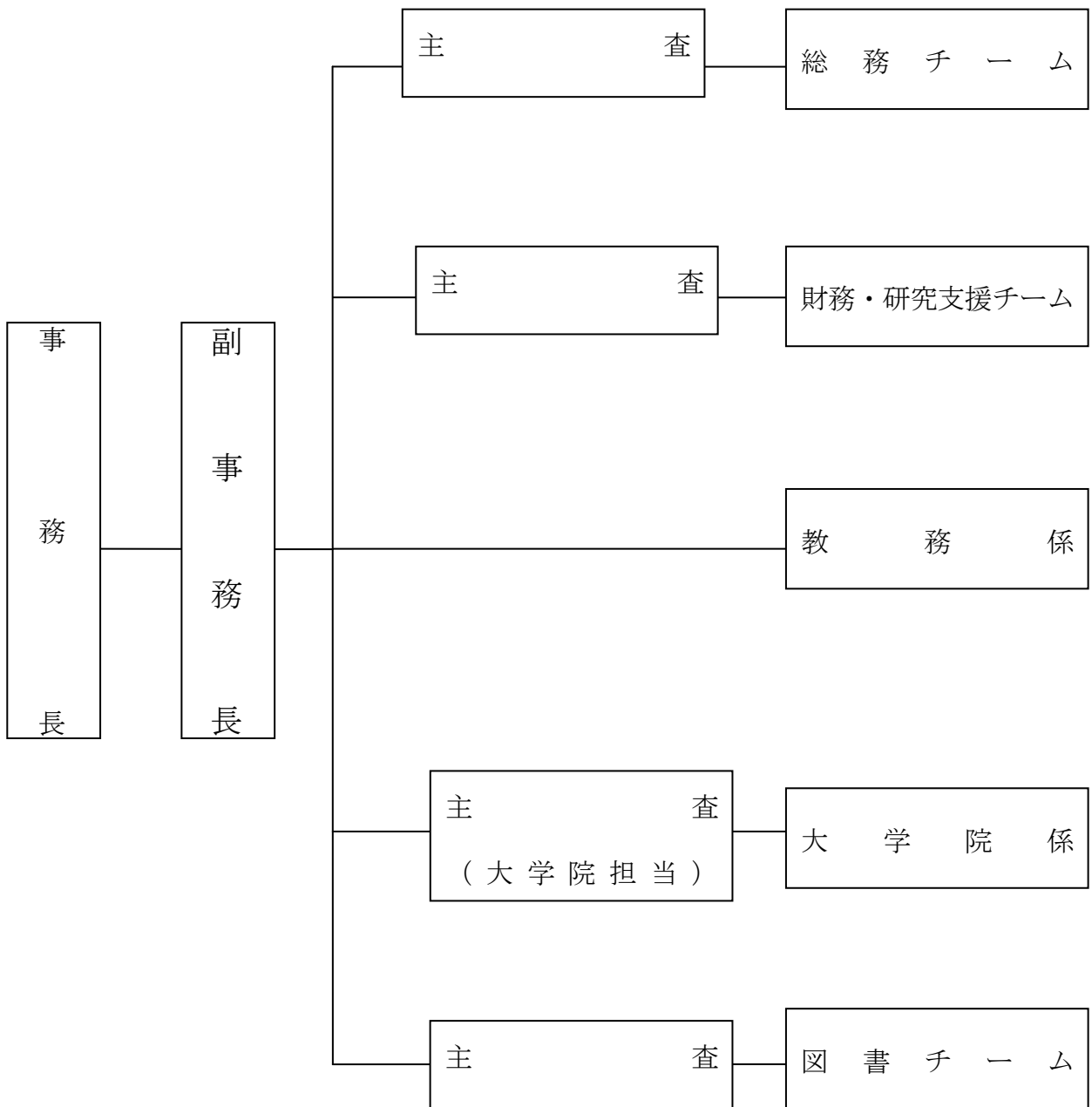
(2) 大学院人文社会系研究科の機構



(3) 文学部の機構



(4) 事務組織



(5) 施設・設備

(平成 22(2010)年度現在)

法文 1 号館	建築年	昭和 4(1929)・40(1965) 昭和 51(1976)	構造 R3-1 構造 R+1
	建物面積	3,964 m ²	総建物面積 10,723 m ²
法文 2 号館	建築年	昭和 4(1929)・42(1967) 昭和 51(1976) 昭和 56(1981)	構造 R4-1 構造 R+1 構造 S+1
	建物面積	12,857 m ²	総建物面積 15,390 m ²
文学部 3 号館	建築年	昭和 62(1987)	構造 R8-2
	建物面積	3,547 m ²	総建物面積 3,547 m ²
アネックス	建築年	平成 9(1997)	構造 S2
	建物面積	580 m ²	総建物面積 580 m ²
総合研究棟	建築年	平成 7(1995)	構造 R7
	建物面積	657 m ²	総建物面積 3,942 m ²
赤門総合研究棟	建築年	昭和 40(1965)	構造 R8-1
	建物面積	2,946 m ²	総建物面積 14,625 m ²

北海文化研究常呂実習施設

土地面積	所有	1,036 m ²			
	借用	5,590 m ²			
建 物	所有	車 庫	建築年	昭和 41(1966)	構造 B1 総建物面積 38 m ²
		資料保存センター	建築年	昭和 43(1968)	構造 W2 総建物面積 175 m ²
		新学生宿舎	建築年	平成 15(2003)	構造 R2 総建物面積 338 m ²
	借用	資 料 館	建築年	昭和 42(1967)	構造 R3 総建物面積 343 m ²
		物 置	建築年	昭和 41(1966)	構造 W1 総建物面積 29 m ²
		研 究 棟	建築年	昭和 41(1966)	構造 W2 総建物面積 288 m ²

b 学士入学試験の実施状況

専修課程	合格者				
	H17	H18	H19	H20	H21
思想文化					
哲学	0 12	1 8	1 8	0 12	0 9
中思文	0 0	1 1	0 0	1 2	0 2
印哲	0 2	1 1	4 11	5 9	1 3
倫理	0 2	0 3	1 2	0 2	0 2
宗教	募集なし	募集なし	募集なし	1 6	2 3
美学	1 7	0 6	2 7	2 11	1 6
イ学	0 0	0 1	0 0	1 2	0 1
小計	1 23	3 20	8 28	10 44	4 26
歴史文化					
日本史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
東洋史	0 5	0 0	1 1	0 0	0 1
西洋史	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし	募集なし
考古	0 1	0 1	1 3	0 2	0 0
美術史	2 9	0 2	0 5	0 12	3 10
小計	2 15	0 3	2 9	0 14	3 11
言語文化					
言語	0 2	0 1	2 4	1 3	0 2
国語	募集なし	募集なし	募集なし	0 2	0 0
国文	募集なし	募集なし	募集なし	0 6	0 4
中文	0 5	0 2	1 2	0 2	0 1
印文	0 0	0 1	0 0	0 0	0 1
英文	2 7	1 3	0 3	2 10	1 8
独文	2 2	1 3	1 2	0 1	2 3
仏文	1 5	0 4	0 4	0 5	0 5
スラヴ	1 2	1 3	0 1	1 2	0 2
南欧文	1 4	1 1	0 1	1 3	2 5
西近 (H19から現文)	0 0	2 2	1 2	1 2	1 3
西古典	2 4	0 2	0 1	0 1	2 4
小計	9 31	6 22	5 20	6 37	8 38
行動文化					
社会	3 14	1 12	2 8	2 9	3 11
合計	15 83	10 57	17 65	18 104	18 86

C 大学院への入・進学

2008年度 大学院学生数

(注)()内は女性、○数字は外国人を示し、内数

専攻	コース	専門分野	修士課程				博士課程				
			2008年	2007年	06年以前	計	2008年	2007年	2006年	05年以前	計
基礎文化研究	言語基礎	言語学	6 (4) ①	2		8 (4) ①	4 (1)	3	3 (1)	5 (1) ①	15 (3) ②
	言語応用	言語動態学	2	2 (1)	2 (1)	6 (2) ①	1	3 (2)	2 (2) ①		6 (4) ①
	形象文化	考古学	3 (2)	1 (1)	1 (1)	5 (4)		5 (3) ①	2	4 (1)	11 (4) ①
		美術史学	6 (4)	4 (3) ①	2 (1)	12 (8) ①	4 (4)	4 (4) ①	3 (1)	7 (6) ①	18 (15) ②
	思想文化	哲学	8	4 (1)	3 ①	15 (1) ①	6	6 (1)	6 (1)	16 (3)	34 (5)
		倫理学	3	3	1	7	2	4 (1)	2	3	11 (1)
		宗教学宗教史学	6 (1) ①	6 (3) ②	3 (1)	15 (5) ③	2	5 (2) ②	7 (1) ①	10 (5)	24 (8) ③
		美学藝術学	3 (1)	4 (1) ①	3 (1)	10 (3) ①	2	1	5 (2)	4 (2)	12 (4)
	心理学	心理学	3 (1)	3 (2) ①		6 (3) ①	2 (2) ①	2	2	3 (1)	9 (3) ①
	日本文化研究	日本語日本文学	9 (5) ②	13 (6) ②	5 (1)	27 (12) ④	7 (1) ③	10 (7) ③	8 (3)	18 (12) ④	43 (23) ⑩
日本史学		11 (2) ①	8 (3)	5 (1)	24 (6) ①	4 (2) ③	9 (2) ①	5 (1)	14 (2) ③	32 (7) ⑦	
アジア文化研究	東アジア	中国語中国文学	5 (3) ①	1 (1) ①	1 (1) ①	7 (5) ③	6 (4) ③	4 (2) ②	5 (4) ②	15 (10) ③	30 (20) ⑩
		東アジア歴史社会		2	1	3	1	4 (2)	4 (2) ①	8 (3) ②	17 (7) ③
		東アジア思想文化	1 ①	4 (2)	2 (1)	7 (3) ①	1 (1) ①	3 (1) ①	2 ①	3	9 (2) ③
	南アジア・東南アジア・仏教	インド文学・インド哲学・仏教学	6 (1)	3 (1) ①	3 (1) ①	12 (3) ②	3 (2)	6 (1) ②	6 (3) ②	13 (3) ④	28 (9) ⑥
		南アジア・東南アジア歴史社会	1 (1)	1	1 (1)	3 (2)		3 (3)	3	4 (2)	10 (5)
	西アジア・イスラム学	イスラム学	3 (3) ①	1	1	5 (3) ①	2	1	2	4 (2)	9 (2)
西アジア歴史社会		1	2 (2)	1	4 (2)	1		1	10 (2) ①	12 (2) ①	
欧米系文化研究	古典古代言語文化	西洋古典学		1		1	2	1		2	5
		フランス語フランス文学	3 (2)	6 (4)	3 (1)	12 (7)	5 (2)	3	4 (3)	20 (11)	32 (16)
	ロマンス語圏言語文化	南欧語南欧文学	1 (1)		2 (1)	3 (2)	1			5 (1)	6 (1)
		英語英米文学	6 (3)	5 (2)	10 (2)	21 (7)	2	6 (2)	4 ①	25 (17) ①	37 (19) ②
	ゲルマン語圏言語文化	ドイツ語ドイツ文学	6 (3)	3 (1)	2	11 (4)	3 (1)	4 (3)	2	13 (7)	22 (11)
	スラヴ語圏言語文化	スラヴ語スラヴ文学	2	1 (1)	1	4 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	5 (3) ①	8 (6) ①
	現代文芸論	現代文芸論	4 (2) ①	6 (3) ②		10 (5) ③	2 (1)	1 (1)	1		4 (2)
	欧米歴史地理文化	西洋史学	6 (3)	5 (2)	2 (1)	13 (6)	5 (2)	4	5 (2)	13 (2)	27 (6)
社会文化研究	社会学	8 (5) ②	6 (2) ②	1 (1)	15 (8) ④	6 (2) ①	5 (2) ①	8 (1) ②	16 (6) ③	35 (11) ⑦	
	社会心理学	4 (2)	2 (1) ①		6 (3) ①	4 (1)	1	2 (2)	4 (3)	11 (6)	
	社会情報学								8 (2)	8 (2)	
文化資源学研究	文化経営学	6 (5) ②	6 (5) ②	1	13 (10) ②	2 (2)	4 (3)	1 (1) ①	2 (1) ①	9 (7) ②	
	形態資料学	3 (2)	3 (2) ①		6 (4) ①	2 (2) ①		2 (2) ①	3 (2)	7 (6) ②	
	文字資料学	文書学					2 (2)			2	4 (2)
文献学									1	1	
韓国朝鮮文化研究	韓国朝鮮歴史社会		1 (1)	1 (1)	2 (2)		3 (1) ②	3 (2) ①	7 (3) ②	13 (6) ⑤	
	韓国朝鮮言語思想		2 (1) ②		2 (1) ②		1 (1) ①		3 (1) ②	4 (2) ③	
	北東アジア文化交流							1 (1)	1 (1) ①	2 (2) ①	
	韓国朝鮮歴史文化	3 (3) ②			3 (3) ②	4 ①				4 ①	
	韓国朝鮮言語社会	1 (1)			1 (1)	3 (1) ①				3 (1) ①	
合計			130 (60) ○14	111 (52) ○19	58 (18) ○3	299 (130) ○36	92 (34) ○15	107 (45) ○16	102 (36) ○14	271 (115) ○30	572 (230) ○75

(2) 教育の成果

a 大学院の学位取得状況

学位取得者数

	2005年度		2006年度		2007年度		2008年度		2009年度	
	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士	修士	博士
人文社会系研究科	149	71(18)	135	61(11)	127	58(9)	103	75(15)	121	70(13)

()はいわゆる論文博士で内数

b 博士論文のオンデマンド出版

東京大学大学院人文社会系研究科では、2000年11月から富士ゼロックス（現在はコンテンツワークス株式会社）の運営するウェブサイト Book Park を利用して、博士論文の公開を開始した。これは、インターネット上に、本研究科の審査に合格した博士論文のリストを掲示し、読者からの購入の希望に応じて当該論文の複写・製本サービスを提供するものである。

これは私たちの研究科における研究・教育の成果をより広く公開していくための方策の一つとしてなされている。博士論文は、その執筆者が研究者の仲間入りをしたことを示す確かな証であるとともに、大学院として研究と教育にあたった最新の成果でもある。したがって、博士論文の公開は、私たちのめざす情報公開と点検評価の推進の上で決定的な意味を持つことになるだろう。この企画は他の国立大学では前例のなかったものであるが、人文社会系大学院における研究成果を社会に還元するためのあらたな方法を、時代の要請に即した形で他に先駆けて実践しているものといえる。これが博士論文のオンデマンド出版を推進する最大の理由である。

さらに、こうした公開によって博士論文へのアクセスが容易になれば、後続の研究に対して、基礎的な情報源となるとともに、乗り越えなければならない目標を設定することにもなる。このような形で各研究分野の活動がさらに活性化されることも、当然の結果として期待している。同時に、本研究科の博士論文が多くの人々の目にとまることにより、書籍としての刊行につながる可能性を開くことになれば良いとも考えている。

オンデマンド出版サービスを開始して以来、2010年10月の時点でウェブサイト上にタイトルが掲載された博士論文の数は72点に達している。これには、最新の博士論文のほか、過去11年間に提出された博士論文、さらに本研究科博士課程出身者が海外の大学に提出した博士論文も含まれている。これまでは論文執筆者の希望に応じて公開を行ってきたが、今後は、オンデマンド出版による博士論文の公開を幅広くよびかけ、これを促進していく方向で事業をすすめている。なお、このサービスの詳細については文学部・人文社会系研究科のウェブサイト上にある博士論文ライブラリー (<http://www.bookpark.ne.jp/todai/>) を参照していただきたい。

d 学部卒業生の就職状況

平成20(2008)年3月卒業生

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 文学部全体	0 (0)	7 (2)	9 (3)	10 (5)	10 (6)	7 (4)	24 (11)	6 (2)	28 (8)	14 (7)	2 (1)	1 (0)	9 (1)	29 (9)	12 (6)	6 (3)	16 (5)	11 (6)	11 (6)

(思想文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 哲学 中国思想文化学 インド哲学仏教学 倫理学 宗教学・宗教学 美学芸術学 イスラム学 (思想文化学科 計)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	3 (1)	2 (2)	2 (2)	6 (3)	1 (1)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (2)	5 (2)	2 (0)	5 (0)	2 (0)	3 (0)

(歴史文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 日本史学 東洋史学 西洋史学 考古学 美術史学 (歴史文化学科 計)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)	1 (1)	1 (0)	3 (0)	8 (0)	0 (0)	3 (2)	4 (1)	1 (1)	0 (0)

(言語文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 言語学 日本語日本文学(国語学) 日本語日本文学(国文学) 中国語中国文学 インド語インド文学 英語英米文学 ドイツ語ドイツ文学 フランス語フランス文学 スラヴ語スラヴ文学 南欧語南欧文学 現代文芸論 西洋古典学 (言語文化学科 計)	0 (0)	2 (2)	1 (0)	2 (1)	1 (0)	0 (0)	8 (4)	2 (1)	6 (1)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	8 (2)	4 (2)	0 (0)	6 (4)	2 (1)	7 (5)

(行動文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 心理学 社会心理学 社会学 (行動文化学科 計) ()内は、女子で内数	0 (0)	3 (0)	4 (1)	4 (3)	6 (4)	3 (1)	9 (4)	3 (0)	13 (7)	8 (5)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	10 (5)	3 (2)	1 (1)	1 (0)	6 (4)	1 (1)

平成21(2009)年3月卒業生

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 文学部全体	3 (2)	13 (8)	6 (2)	11 (1)	4 (1)	5 (1)	15 (7)	5 (0)	32 (12)	15 (6)	3 (2)	7 (3)	4 (1)	24 (15)	16 (6)	2 (0)	7 (6)	13 (4)	7 (2)

(思想文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 哲学 中国思想文化学 インド哲学仏教学 倫理学 宗教学・宗教学 美学芸術学 イスラム学 (思想文化学科 計)	0 (0)	4 (4)	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	3 (2)	1 (0)	0 (0)	6 (3)	4 (2)

(歴史文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 日本史学 東洋史学 西洋史学 考古学 美術史学 (歴史文化学科 計)	1 (1)	2 (1)	4 (1)	3 (0)	1 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	10 (2)	2 (1)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	9 (3)	4 (2)	0 (0)	4 (3)	2 (1)	2 (0)

(言語文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 言語学 日本語日本文学(国語学) 日本語日本文学(国文学) 中国語中国文学 インド語インド文学 英語英米文学 ドイツ語ドイツ文学 フランス語フランス文学 スラヴ語スラヴ文学 南欧語南欧文学 現代文芸論 西洋古典学 (言語文化学科 計)	1 (0)	4 (1)	1 (1)	2 (0)	3 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (2)	1 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (6)	5 (1)	1 (0)	2 (2)	2 (0)	0 (0)

(行動文化学科)

業種	印刷	出版	新聞	放送	広告	通信	情報	コンサルト	金融 保険 証券	商社 流通	建設	不動産	運輸	製造	サービ ス	ガス・ 電力	教育	官公庁	その他
専修課程 心理学 社会心理学 社会学 (行動文化学科 計) ()内は、女子で内数	1 (1)	3 (2)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (4)	2 (0)	15 (8)	8 (4)	2 (1)	5 (2)	2 (1)	4 (4)	4 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (0)	1 (0)

3 国際交流

(1) 留学生教育と国際交流活動

a 留学生教育

人文社会系研究科には、毎年多数の留学生が正規の学生、もしくは研究生として在籍し、修士、博士の学位を取得するものも少なくない。他の研究科と異なり、本研究科の場合には、高度の日本語の能力と日本事情に通じていることが、学問の前提として必要となる。そこで人文社会系研究科・文学部独自に、日本語教育を実施している。しかし、受講希望者の多様化により、担当者は過重の負担を強いられている。その負担の軽減を図るため、非常勤講師を採用するなどの措置を取ってはいるが、なお十分ではない。

また、これらの教育により、高度の日本語を身につけたとしても、それぞれの学問分野で論文を発表するのに十分な日本語ということになると、これは、また別の次元の問題である。修士論文にせよ、博士論文にせよ、それぞれの分野の日本人学生が、論文の日本語に手を入れているのが実情である。多くの場合、チューター役を任じられた日本人学生が、ボランティアとして献身的に行っている。こうした現状を改善すべく、本研究科においては、2000年度に、「三金会」（東京都立高校の校長OB有志の親睦会）会員諸氏のご協力のもと、博士課程に在学する外国人留学生で、博士論文の日本語の添削を必要とするものに対する支援を目的とした「留学生博士論文作成支援ネットワーク」がスタートした。この支援を受けた留学生の中から、博士論文を完成させ、博士号を取得した者も出てきている。同ネットワークをいかに発展・充実させ、より多くの留学生が支援を受けることができるようにすべきかが今後の課題である。このように、指導教員をはじめとして、多くのボランティアに支えられ、現在の留学生教育は成り立っているが、ボランティアの方々のご厚意に依存することには、自ずと限界があり、より制度的な支援が求められる。

教育以外の問題、すなわち生活上の問題はより深刻である。住居事情の悪さ、超低金利による財団系奨学金受給者数や金額の減少が著しい。住居事情の悪さをカバーするため大学に勉学の場所を作ろうと思っても場所がない。こうしたさまざまな問題が、教育の現場に降りかかってくる。種々の方面にわたる、きめ細かな支援策が講じられるように願うものである。本研究科・文学部では「国際交流室」を設置し、留学生のための日本語教育及び相談業務を行っており、今後もその人的・資金的な充実化をはかるよう努力していくものである。

国又は地域別外国人留学生数

各年度 05 月 01 日現在

国名又は地域名	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
アジア					
インド					
インドネシア	1		1	2	
韓国	63	64	65	59	62
シンガポール	1	1	1	1	
スリランカ	1	1	1	1	1
タイ	1	1	1	1	
台湾	25	28	25	22	15
中国	36	43	36	36	37
中国(香港)	1	1	1	1	1
ベトナム					
マレーシア		2	2	2	3
モンゴル	1	1	1	1	1
小 計	130	142	134	126	120

中近東					
イラン					1
イスラエル	1	1	1	1	1
トルコ	1	1	1	1	1
小計	2	2	2	2	3
アフリカ					
エジプト		1	1	1	1
コンゴ民主共和国					
小計		1	1	1	1
オセアニア					
オーストラリア	3	1	1	1	1
ニュージーランド			1	1	1
小計	3	1	2	2	2
北米					
アメリカ合衆国	7	6	7	6	8
カナダ		1	2	1	
小計	7	7	9	7	8
中南米					
アルゼンチン			1	1	
パラグアイ					1
ブラジル		1	1		
小計		1	2	1	1
ヨーロッパ					
イギリス	3	2	2	1	1
イタリア	3	3	3	4	2
ウクライナ		1	1	1	2
ウズベキスタン			1	1	
オーストリア	1				1
スイス	1	2	1	1	1
スウェーデン	1	1	1		
スペイン	1		1		
スロバキア		1	1		
セルビア	1	1	1	1	1
デンマーク					
ドイツ	2	1	2	1	2
ノルウェー	1				
ハンガリー		2	3	1	1
フィンランド					
フランス	3	2	2	3	3
ブルガリア	1	1	1	1	
ベルギー					
ポーランド	3	2	3	4	1
ルーマニア		2	2		
ロシア	5	3	1		3
キルギス					1
小計	26	24	26	19	19
合計	168	178	176	158	154

b 国際交流活動

本研究科は留学生を受け入れるばかりではなく、数多くの学生を海外に派遣してきた。その派遣先は、アジア、アメリカ、アフリカ、オーストラリア、ヨーロッパの国々のさまざまな大学である。20以上の海外諸機関と学術協定を結び、研究者の交流も活発に行なわれている。

また、毎年、海外から多数の研究者を文学部内規によって文学部外国人研究員として受け入れている。

外国人研究員（国籍別人数）

（※ 文学部内規による）

国名	2005	2006	2007	2008	2009
韓国	16	11	14	12	15
台湾			2	2	2
中国	7	8	10	13	12
マレーシア		1	1	1	
トルコ		1			
チャド	1				
オーストラリア					1
アメリカ合衆国	6	3	3	8	10
カナダ	2	2	3	3	
イギリス	2	1	1	1	
イタリア	2	1	1	2	5
スイス				1	1
ドイツ	1		1	1	2
フランス		2	1	2	1
ブルガリア	1	2		1	
ベルギー	1				
ポーランド	1	1	1		1
ルーマニア	1				1
ロシア		1	1	1	
ウズベキスタン					1
クロアチア					1
計	41	34	39	48	53

c 次世代人文社会学育成プログラム

文学部・人文社会系研究科では、2009年から「次世代人文社会学育成プログラム」を開始した。これは日本学術振興会の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」に採択されたことを受け、向こう3年間におよそ98名の学部学生、大学院生、若手研究者を世界各地の大学や研究機関に派遣しようというプログラムとなっている。

選考を経て採択された応募者には、渡航費と滞在費が支給される。

これまで文学部・人文社会系研究科が海外に派遣することのできる学生はきわめて限られていたが、これによって東アジア、ヨーロッパ、北米地域への留学や研修の可能性が大きく開かれることとなった。

国又は地域別派遣者数

国名又は地域名	2009年度
アジア	
台湾	1
小計	1
北米	
アメリカ	1
小計	1
ヨーロッパ	
イギリス	1
フランス	2
小計	3
合計	5

(2) 国際交流協定

a 学術・学生関係

2009年12月1日現在

国名	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
		本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
ドイツ	ホップム・ルール大学	総長 1969/5/23	総長 1969/7/14	日本学、シナ学、ドイツ文学・語学・哲学、歴史学、美術史学、人文地理学	1. 教授・助教授・専任講師及び研究助手 2. 稀少な文献または資料の印刷物
ポーランド	ワルシャワ大学	総長 1978/4/1	総長 1978/5/10	日本学、スラヴ学	1. 研究者、研究留学生 2. 学術資料等の交換
中国	北京大学	総長 2003/12/17 2009/7/21	学長 2003/11/7 2009/7/21	学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
イタリア	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	総長 1999/1/22 2004/5/31 2009/6/22	総長 1999/4/30 2004/6/17 2009/7/7	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. 会議・セミナーの開催
韓国	ソウル大学校	総長 1990/8/17 1995/12/4 2000/12/21	総長 1990/8/17 1995/12/14 2001/1/22	相互の必要とする分野	1. 教官、学生 2. 学術情報及び資料の交換 3. 共同研究、シンポジウム及び講演の実施
イタリア	パドヴァ大学	総長 1993/1/7 1995/4/14 2003/3/14	学長 1993/1/7 1998/4/24 2003/3/19	共通の興味と関心の存在する分野	1. 教育及び研究者、学生 2. 学術情報、刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
フランス	エコール・ノルマル・スーペリウール	総長、文学部長 1993/2/23 1998/4/28 2003/3/24 2008/2/8	校長、副校長 1993/3/3 1998/5/7 2003/3/31 2008/3/4	それぞれが関心を持つ分野	1. 大学院生、教官・研究者 2. 学術情報及び書籍・資料の交流
イラン	テヘラン大学	総長 1997/3/7 2002/8/12 2007/5/25	総長 1997/4/23 2002/8/27 2007/6/12	相互に関心を持つ分野	1. 教官、研究者、学部学生・大学院生 2. 情報、学術資料の交換 3. 共同研究、シンポジウム、講義等
イラン	テヘラン大学	総長 2008/9/19	総長 2008/10/20	双方が必要と認める分野	学生の交流
ロシア	ロモノソフ記念モスクワ国立大学	総長 1998/4/7 2003/5/13	総長 1998/4/7 2003/6/24	学術研究上共通の関心を持つ分野	1. 教官、研究者、大学院生・学部学生 2. 共同研究、講義及びシンポジウム 3. 情報及び学術刊行物の交換
スイス	ジュネーブ大学	総長 1997/7/2 2002/7/2 2007/7/6	学長 1997/7/2 2002/7/22 2007/7/26	両大学が関心を持つ分野	1. 学生、教官、研究者 2. 刊行物、学術情報の交換 3. 学会、セミナー、講演会、共同研究
エジプト	カイロ大学	総長 1998/7/3 2005/6/27	学長 1998/7/3 2005/7/11	それぞれが学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官、研究者、学生 2. 共同研究、講義、講演、シンポジウム 3. 学術情報及び資料の交換
イタリア	フィレンツェ大学	総長 1998/7/24 2003/11/26	学長 1998/7/30 2003/10/6	共通の関心を有する分野	1. 教官、研究者、大学院生 2. 学術情報及び学術刊行物の交換 3. セミナーやシンポジウムの共同開催
インド	デリー大学	総長、人文科学研究科委員会委員長 1980/3/25 1983/3/25 1986/4/22 1992/7/8	副総長、事務局長 1980/5/1 1983/5/2 1986/5/1 1992/7/20	(派遣)インド哲学、仏教学、サンスクリット、インド史。(受入)日本仏教・中国仏教・インド仏教の思想と歴史、インド哲学、サンスクリット、チベット哲学、サンスクリット、チベット研究、日本研究	1. 大学院学生(協定書で学生の在籍研究科・学科を指定)
アメリカ合衆国	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校	総長 2001/7/3 2006/7/3	学長、監査官、書記長、法律部代表 2001/7/3 2006/7/3	それぞれが学術研究及び教育上関心を持つ分野	1. 教官、研究者、学生 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
イタリア	ピサ高等師範学校	総長 2002/5/30 2007/4/4	総長 2002/6/10 2007/4/19	それぞれが関心を持つ分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
韓国	高麗大学校	総長 2005/10/28	総長 2005/10/28	双方が必要とする分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換

b 部局間協定

国名	大学名	署名者及び署名年月日		協定の内容	
		本学	相手方の大学	専門分野	交流の対象
中国	北京大学歴史学系	総合文化研究科長 2006/7/21 2008/9/8 人文社会系研究科長 2006/8/3 2008/9/16	歴史学系主任 2006/8/21	歴史学	学生の交流
イタリア	ローマ大学「ラ・サピエンツァ」 東洋研究学部	人文社会系研究科長 2009/10/23	東洋研究学部長 2009/11/5	共通の関心を有する分野	1. 教員、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
韓国	ソウル大学校人文大学	人文社会系研究科長 2005/7/11	人文大学長 2005/8/10	人文社会系の各分野	学生の交流
モロッコ	アブデルマレク・エッサデーイ大 学文学部	総長、人文社会系研究科長 1998/3/24 人文社会系研究科長 2003/7/2 2008/5/23	総長、文学部長 1998/3/24 文学部長 2003/7/8 2008/6/10	共通の関心を有する分野	1. 研究者 2. 学生 3. 研究プロジェクトの共同推進 4. 学術情報及び学術刊行物の交換 5. 会議及びシンポジウムの開催
フランス	エコール・ノルマル・スーペリール/ 文学・人文科学リヨン校	人文社会系研究科長 1999/10/19 2002/9/25 2008/1/22	校長 1999/10/13 2002/10/15 2008/1/30	特定していない	1. 学生、教官、研究者 2. 学術情報及び書籍・資料の交換 3. 共同研究計画の推進
フランス	フランス極東学院	人文社会系研究科長 2001/3/13 2006/3/13	学院長 2001/3/13 2006/3/13	それぞれが学術研究及び教育上関心を 持つ分野	1. 教官、研究者 2. 共同研究の実施 3. 講義、講演、シンポジウムの実施 4. 学術情報及び資料の交換
アメリカ合衆国	ミシガン大学社会科学総合 研究所・ミシガン大学総合 国際研究所	人文社会系研究科長 2001/12/12 社会科学研究所長 2001/12/12 総長特別補佐 2001/12/12 2007/3/27(26)	Director of the Institute for Social Research 2001/12/18 Director of the International 2001/12/17 Interim Provost and Executive Vice President for Academic Affairs 2001/12/17 2007/4/4	共通の関心を有する分野	1. 教官及び研究者(大学院学生を含む) 2. 共同研究、セミナー、シンポジウムの共同 開催 3. 学術情報及び学術刊行物の交換
中国	山東大学文史哲研究院・韓 国研究中心	人文社会系研究科長 2003/7/17 2008/11/25	研究院院長 2003/8/10 2008/11/25 研究中心主任 2003/9/9 2008/11/25	相互に関心のある専門分野	1. 教官及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
韓国	釜山大学校人文大学	人文社会系研究科長 2005/1/13	人文大学長 2005/2/17	人文社会系分野で双方が必要と認める分 野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 学術情報及び資料の交換
韓国	高麗大学校文科大学	人文社会系研究科長 2005/10/31	文科大学長 2005/10/28	人文社会系の各分野	学生の交流
ドイツ	ブレーメン大学文化学部	人文社会系研究科長 2006/7/21	文化学部長 2006/8/14	双方が必要と認める分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
韓国	成均館大学校儒学・東洋学 部	人文社会系研究科長 2006/11/2	文化学部長 2006/11/11	東アジアの歴史・思想に関する分野	1. 教員及び研究者 2. 学生 3. 共同研究の実施 4. 講義、講演、シンポジウムの実施 5. 学術情報及び資料の交換
イギリス	マンチェスター大学 人文学部	人文社会系研究科長 2009/8/24	人文学部長 2009/9/7	人文学、社会学	1. 教員及び研究者 2. 学生

(3) 国際研究協力

a 海外渡航

2008年度		2009年度	
全体	195人 (外国出張 175人、海外研修20人)	全体	201人 (外国出張 171人、海外研修 30人)
教授	117人	教授	102人
准教授	44人	准教授	65人
助教	20人	助教	17人
講師	2人	講師	0人
外国人教師	7人	外国人教師	9人
外国人研究員	5人	外国人研究員	8人

b 外国人教員

<外国人教員>

フランス語フランス文学専修課程	シモン-オイカワ、マリアンヌ (2006.10.16~2012.10.15)
社会心理学専修課程	ステイール、ジル (2007. 4. 1~2012. 3.31)
中国語中国文学専修課程	李 簡 (2007.10. 1~2009. 9.30)
中国語中国文学専修課程	常 森 (2009.10. 1~2011. 9.30)

<外国人研究員 (客員) >

文化資源学専攻	ルーマニエール、ニコル クーリジ (2006.11.27~2009.9.30)
文化資源学専攻	カーペンター、ジョン トーマス (2009.10. 1~2011. 3.31)
韓国朝鮮文化研究専攻	金 星奎 (2008. 4. 1~2009. 2.28)
韓国朝鮮文化研究専攻	鄭 承喆 (2009. 4. 1~2010. 2.28)
附属次世代人文学開発センター	ミュラー、アルバート チャールズ (2008.10.1~2011.9.30)

c 外国人教師

〔()内は国籍〕

専修課程	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
中国語中国文学	1名 (中国)					
英語英米文学	1名 (英国)					
ドイツ語ドイツ文学	1名 (独)					
フランス語フランス文学	1名 (仏)					
南欧語南欧文学	1名 (伊)					

4 研究費の受け入れ

(1) 科学研究費補助金

2008（平成20）年度

研究種目	課題番号	研究代表者	平成20年度 直接経費	平成20年度 間接経費	研究課題名
特定領域研究	17063002	佐藤 宏之	3,300,000	0	西アジア旧石器時代の行動進化と定住化プロセスの関係
特定領域研究	17083003	小島 毅	26,100,000	0	東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成——寧波を焦点とする学際的創生——：総括班
特定領域研究	17083004	小島 毅	9,700,000	0	歴史書編纂と王権理論に見る東アジア3国の比較
特定領域研究	17083005	川原 秀城	4,800,000	0	朝鮮思想と中国・ヨーロッパ——東アジア海域交流のなかで
特定領域研究	17083009	横手 裕	5,900,000	0	宋元明における仏教道徳交渉と日本宗教・思想
特定領域研究	20019017	立花 政夫	3,800,000	0	視覚系における情報のコーディングとデコーディング機構の解析
特別研究促進費	20529002	高橋 晃一	800,000	0	『瑜伽師地論』とアビダルマ仏教の思想的関連について
特別研究促進費	20529003	藤崎 衛	1,100,000	0	中世ローマ教皇庁のユダヤ人認識に関する研究
基盤研究(S)	18102002	吉田 伸之	15,900,000	4,770,000	16-19世紀、伝統都市の分節的な社会＝空間構造に関する比較類型論的研究
基盤研究(S)	20223004	白波瀬 佐和子	13,700,000	4,110,000	少子高齢社会の階層格差の解明と公共性の構築に関する総合的実証研究
基盤研究(A)	17202001	清水 哲郎	6,500,000	1,950,000	西欧中世における言語哲学の展開と諸学における意義
基盤研究(A)	18202010	松村 一登	6,100,000	1,830,000	ロシアおよびその周辺の少数言語のコーパスの構築と記述的・歴史的研究
基盤研究(A)	18202023	近藤 和彦	7,300,000	2,190,000	ブリテン諸島の歴史の総合的再構築
基盤研究(A)	18203033	池田 謙一	4,200,000	1,260,000	世界規模の社会参加・民主主義・社会関係資本指標の日本データ取得による分析研究
基盤研究(A)	19202002	齊藤 明	9,800,000	2,940,000	仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究
基盤研究(A)	19202005	西村 清和	7,300,000	2,190,000	「生活場所(ビोटープ)」の美学——自然・環境・美的文化
基盤研究(B)	17320046	塩川 徹也	2,200,000	660,000	フランスにおけるキリスト教と文学
基盤研究(B)	17320056	藤井 省三	2,800,000	840,000	20世紀東アジア文学史における村上春樹の研究
基盤研究(B)	17320097	大津 透	3,100,000	930,000	日唐律令比較研究の新段階
基盤研究(B)	17320121	佐藤 宏之	2,800,000	840,000	日本列島北部の更新世／完新世移行期における居住形態と文化形成に関する研究
基盤研究(B)	18310157	水島 司	2,900,000	870,000	南インド村落構造の変動：四半世紀後の再調査とGISの応用研究
基盤研究(B)	18310158	市川 裕	3,500,000	1,050,000	近代ユダヤ文化論の学際的総合研究
基盤研究(B)	18320003	榎原 哲也	3,300,000	990,000	「いのち・からだ・こころ」をめぐる現代の問題への応用現象学からの貢献の試み
基盤研究(B)	18320004	関根 清三	1,900,000	570,000	倫理・法・自由——ヘレニズム・ヘブライズム思潮の相克と止揚をめぐる比較研究
基盤研究(B)	18320005	一ノ瀬 正樹	2,300,000	690,000	知識・行為・制度をめぐる「因果性」と「志向性」の哲学的解明
基盤研究(B)	18320047	逸身 喜一郎	3,500,000	1,050,000	ローマの政治・思想・修辞学が古典古代の文学に及ぼした影響
基盤研究(B)	18320064	上野 善道	2,100,000	630,000	琉球諸方言要地アクセントの緊急調査研究
基盤研究(B)	18330120	武川 正吾	1,900,000	570,000	北東アジア諸国の福祉レジームに関するポスト・オリエンタリズム的な国際比較研究
基盤研究(B)	18330133	唐沢 かおり	3,500,000	1,050,000	格差社会での協同：格差解消にいたる基礎過程の解明と処方的研究への展開
基盤研究(B)	19320045	平石 貴樹	3,700,000	1,110,000	18～19世紀の英米文化交流の実証的研究
基盤研究(B)	19320046	中地 義和	5,400,000	1,620,000	旅行記と文学創造—フランス文学の場合
基盤研究(B)	19320057	木村 英樹	3,500,000	1,050,000	中国語の構文及び文法範疇形成の歴史的要因と汎時的普遍性—中国語歴史文法の再構築—
基盤研究(B)	19320058	林 徹	3,700,000	1,110,000	中国語とその周辺言語におけるダイクシス
基盤研究(B)	19320116	桜井 万里子	4,000,000	1,200,000	古代地中海世界における規範と公共性の比較文化史的研究
基盤研究(B)	19320124	熊木 俊朗	2,800,000	840,000	北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究
基盤研究(B)	19320138	本田 洋	2,100,000	630,000	韓国社会のポスト産業化に関する人類学的研究
基盤研究(B)	19401030	大貫 静夫	3,200,000	960,000	東北アジアにおける定着的食料採集社会の形成および変容過程の研究
基盤研究(B)	20320002	高山 守	4,500,000	1,350,000	哲学と芸術と国家
基盤研究(B)	20320021	小田部 胤久	2,300,000	690,000	「ヨーロッパ—アジア」の美学的理念史
基盤研究(B)	20320022	秋山 聡	5,300,000	1,590,000	像(イメージ)の生動化についての比較美術史的研究
基盤研究(B)	20320023	小佐野 重利	3,800,000	1,140,000	国家もしくは都市の顕彰装置としての自画像コレクションの歴史文化史的研究
基盤研究(B)	20320029	小林 真理	4,400,000	1,320,000	行政構造改革が戦後日本の芸術文化政策の成果に与えた影響に関する研究
基盤研究(B)	20320052	沼野 充義	3,300,000	990,000	グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成
基盤研究(B)	20330131	山口 勸	2,800,000	840,000	自尊心の意味、効用、および規定因に関する比較文化的研究—合理的選択の視点から
基盤研究(C)	17520107	渡部 泰明	300,000	90,000	藤原俊成の総合的研究
基盤研究(C)	17520292	肥爪 周二	800,000	240,000	中・近世悉曇資料・唐音資料を視野に入れた日本語音節構造史の研究
基盤研究(C)	17520420	藤田 覚	500,000	150,000	朝廷儀礼をめぐる朝幕藩関係の研究
基盤研究(C)	18520040	種村 隆元	500,000	150,000	インド密教におけるcaryaの文献学的研究
基盤研究(C)	18520174	阿部 公彦	800,000	240,000	英語圏における「問答形式」の歴史的展開、および日本における英語教育への影響の研究
基盤研究(C)	18520259	高橋 孝信	900,000	270,000	タミル古代の英雄文学の再検討
基盤研究(C)	18520581	堀内 秀樹	1,400,000	420,000	ヨーロッパ市場における東洋陶磁器の消費動態に関する考古学的研究
基盤研究(C)	18530001	柳橋 博之	500,000	150,000	イスラーム世界における法学派の伝播と定着—地域社会の法と宗教
基盤研究(C)	18530371	盛山 和夫	800,000	240,000	理論社会学と公共哲学および少子高齢化問題を通じての公共社会学の構想に関する研究
基盤研究(C)	18530376	赤川 学	1,100,000	330,000	人口減少に対応した制度設計の公共社会学的研究
基盤研究(C)	19520073	竹下 政孝	1,700,000	510,000	近代以前イスラーム社会における知識人の再生産に関する総合的研究
基盤研究(C)	19520135	安藤 宏	800,000	240,000	近代文学関連雑誌の総合的研究
基盤研究(C)	19520136	多田 一臣	900,000	270,000	「辺境からの文学史」の研究
基盤研究(C)	19520138	長島 弘明	1,000,000	300,000	初期読本の総合的研究
基盤研究(C)	19520199	塚本 昌則	1,200,000	360,000	20世紀フランス文学における時間の探究
基盤研究(C)	19520200	金澤 美知子	1,100,000	330,000	「手紙」の文化に見る近代ロシア文学の成立過程—現実と虚構の間で—
基盤研究(C)	19520293	土田 龍太郎	800,000	240,000	サンスクリット大叙事詩マハーバーラタのテキスト形成史の解明
基盤研究(C)	19520386	月本 雅幸	900,000	270,000	「訓点資料総目録平安時代編真言宗の部」の作成
基盤研究(C)	19520621	高山 博	1,000,000	300,000	中世ドイツの統治システム～中世西欧の統治システムの比較研究～
基盤研究(C)	19520649	今村 啓爾	800,000	240,000	完新世前期狩猟採集文化の世界的横断比較
基盤研究(C)	19530651	高野 陽太郎	1,600,000	480,000	外国語副作用の生起プロセス
基盤研究(C)	20520044	丸井 浩	1,500,000	450,000	現存最古のニヤヤ哲学綱要書『ニヤヤ・カリカ』の校訂テキスト作成と翻訳
基盤研究(C)	20520112	渡辺 裕	1,200,000	360,000	土地の記憶の生成・変容過程に関わる芸術の機能的研究

基盤研究(C)	20520278	MARIA SIM	1,200,000	360,000	19、20世紀のフランスにおける文学と絵画の関係についての総合的研究
基盤研究(C)	20520565	佐藤 信	1,300,000	390,000	古代日本列島における漢字文化受容の地域的特性の研究
基盤研究(C)	20520636	橋場 弦	1,700,000	510,000	古代ギリシアにおける紛争解決と公共圏の比較文化史的研究
基盤研究(C)	20530658	瀨山 淳一郎	1,300,000	390,000	不気味の谷の実験心理学的研究
若手研究(スタート)	19800008	月元 敬	520,000	156,000	検索行為が及ぼす抑制効果に関する研究
若手研究(スタート)	19820007	濱本 真実	1,350,000	405,000	ロシアの東方拡大とムスリム支配機構の成立:18世紀後半のタタール人の役割
若手研究(スタート)	19820008	高橋 健	1,350,000	405,000	環オホーツク海・環ベーリング海地域における海獣狩猟文化の成立・変容過程の研究
若手研究(スタート)	20820012	吉田 聡	990,000	297,000	現象学的分析と言語分析との融合による自我の研究
若手研究(スタート)	20820013	河野 龍也	1,330,000	399,000	佐藤春夫のジャンル意識とナショナルアイデンティティに関する研究
若手研究(スタート)	20820014	畑 浩一郎	1,330,000	399,000	19世紀フランス文学における他者の表象
若手研究(スタート)	20830020	富江 直子	1,020,000	306,000	「生存権」の歴史社会学
萌芽研究	19650061	佐藤 隆夫	1,300,000	0	アジアゾウの知覚・認知の実験的検討
萌芽研究	19653080	横澤 一彦	2,100,000	0	リアリティを紡ぎだす視聴触覚相互作用に関する認知心理学的研究
萌芽研究	20652005	下田 正弘	3,000,000	0	次世代新大蔵経編纂スキームの構築
若手研究(B)	18720017	青柳 かおる	1,000,000	300,000	古典イスラーム・セクシュアリティ思想の現代的意義の研究
若手研究(B)	18720061	毛利 公美	500,000	150,000	越境の詩学・亡命ロシア文化における映像文化と文学の接点としてのナボコフ研究
若手研究(B)	18720186	志賀 美和子	900,000	270,000	インド独立と南インド・非バラモン運動・共産主義運動の影響
若手研究(B)	19720201	追川 吉生	600,000	180,000	近世武家儀礼に伴う食膳形態の形成と変容—遺跡出土の什器組成に関する考古学的研究—
若手研究(B)	20700022	紙名 哲生	1,100,000	330,000	効率的な高信頼性ソフトウェア開発のためのプログラミング言語の研究
若手研究(B)	20720196	加藤 玄	1,200,000	360,000	中世アキテーヌ公領統治における空間とコミュニケーションの諸相

2009(平成21)年度

研究種目	課題番号	研究代表者	平成21年度 直接経費	平成21年度 間接経費	研究課題名
特定領域研究	17063002	佐藤 宏之	2,900,000	0	西アジア旧石器時代の行動進化と定住化プロセスの関係
特定領域研究	17083003	小島 毅	39,500,000	0	東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—:総括班
特定領域研究	17083004	小島 毅	9,700,000	0	歴史書編纂と王権理論に見る東アジア3国の比較
特定領域研究	17083005	川原 秀城	4,800,000	0	朝鮮思想と中国・ヨーロッパ—東アジア海域交流のなかで
特定領域研究	17083009	横手 裕	5,900,000	0	宋元明における仏教道交渉と日本宗教・思想
特定領域研究	20019017	立花 政夫	3,800,000	0	視覚系における情報のコーディングとデコーディング機構の解析
基盤研究(S)	18102002	吉田 伸之	14,500,000	4,350,000	16-19世紀、伝統都市の分節的な社会=空間構造に関する比較類型論的研究
基盤研究(S)	20223004	白波瀬 佐和子	23,700,000	7,110,000	少子高齢化の階層格差の解明と公共性の構築に関する総合的実証研究
基盤研究(S)	21221010	水島 司	31,200,000	9,360,000	インド農村の長期変動に関する研究
基盤研究(S)	21223001	池田 謙一	6,600,000	1,980,000	国際比較のための価値・信頼・政治参加・民主主義指標の日本データ取得とその解析研究
基盤研究(A)	19202002	齊藤 明	8,700,000	2,610,000	仏教用語の『日英基準訳語集』構築に向けての総合的研究
基盤研究(A)	19202005	西村 清和	7,300,000	2,190,000	「生活場所(ビオトープ)」の美学—自然・環境・美的文化
基盤研究(A)	21242024	深沢 克己	8,300,000	2,490,000	ヨーロッパ・地中海世界における異宗教・異宗派間の相剋と融和をめぐる比較史研究
基盤研究(A)	21242026	佐藤 宏之	8,200,000	2,460,000	黒曜石の流通と消費からみた環日本海北部地域における更新世人類社会の形成と変容
基盤研究(B)	18310158	市川 裕	2,800,000	840,000	近代ユダヤ文化論の学際的総合研究
基盤研究(B)	18320005	一ノ瀬 正樹	2,200,000	660,000	知識・行為・制度をめぐる「因果性」と「志向性」の哲学的解明
基盤研究(B)	18320047	逸身 喜一郎	2,700,000	810,000	ローマの政治・思想・修辞学が古典古代の文学に及ぼした影響
基盤研究(B)	18320064	上野 善道	1,900,000	570,000	琉球諸方言要地アクセントの緊急調査研究
基盤研究(B)	18330120	武川 正吾	2,900,000	870,000	北東アジア諸国の福祉レジームに関するポスト・オリエンタリズム的な国際比較研究
基盤研究(B)	18330133	唐沢 かおり	3,100,000	930,000	格差社会での協同:格差解消にいたる基礎過程の解明と処方研究への展開
基盤研究(B)	19320045	平石 貴樹	3,700,000	1,110,000	18-19世紀の英米文化交流の実証的研究
基盤研究(B)	19320046	中地 義和	4,200,000	1,260,000	旅行記と文学創造—フランス文学の場合
基盤研究(B)	19320057	木村 英樹	2,800,000	840,000	中国語の構文及び文法範疇形成の歴史的変容と汎時的普遍性—中国語歴史文法の再構築—
基盤研究(B)	19320058	林 徹	3,400,000	1,020,000	中国語とその周辺言語におけるダイクシス
基盤研究(B)	19320116	桜井 万里子	3,200,000	960,000	古代地中海世界における規範と公共性の比較文化史的研究
基盤研究(B)	19320124	熊木 俊朗	2,900,000	870,000	北東アジア史からみた中世アイヌ文化形成過程の考古学的研究
基盤研究(B)	19320138	本田 洋	1,700,000	510,000	韓国社会のポスト産業化に関する人類学的研究
基盤研究(B)	19401030	大木 静夫	3,000,000	900,000	東北アジアにおける定着の食料採集社会の形成および変容過程の研究
基盤研究(B)	20320002	高山 守	4,500,000	1,350,000	哲学と芸術と国家
基盤研究(B)	20320021	小田部 胤久	2,000,000	600,000	「ヨーロッパ—アジア」の美学的理念史
基盤研究(B)	20320022	秋山 聡	4,700,000	1,410,000	像(イメージ)の生動化についての比較美術史的研究
基盤研究(B)	20320023	小佐野 重利	3,700,000	1,110,000	国家もしくは都市の顕彰装置としての自画像コレクションの歴史文化史的研究
基盤研究(B)	20320029	小林 真理	2,100,000	630,000	行政構造改革が戦後日本の芸術文化政策の成果に与えた影響に関する研究
基盤研究(B)	20320052	沼野 充義	2,400,000	720,000	グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成
基盤研究(B)	20330131	山口 勲	2,000,000	600,000	自尊心の意味、効用、および規定因に関する比較文化的研究—合理的選択の視点から
基盤研究(B)	21300148	立花 政夫	6,200,000	1,860,000	視覚系における初期情報処理機構の研究
基盤研究(B)	21320005	関根 清三	2,200,000	660,000	哲学と宗教の対話—ヘブライズム・キリスト教とヘレニズムの交錯
基盤研究(B)	21320006	榊原 哲也	2,700,000	810,000	ケアの現象学の基礎と展開
基盤研究(B)	21320065	藤井 省三	1,800,000	540,000	東アジアにおける魯迅「阿Q」像の系譜
基盤研究(B)	21320119	大津 透	4,300,000	1,290,000	日唐宋律令法の比較研究と『新唐令拾遺』の編纂
基盤研究(B)	21330167	佐藤 隆夫	4,600,000	1,380,000	視覚運動情報と身体運動情報の統合過程
基盤研究(C)	18520174	阿部 公彦	800,000	240,000	英語圏における「問答形式」の歴史的展開、および日本における英語教育への影響の研究
基盤研究(C)	18520259	高橋 孝信	700,000	210,000	タミル古代の英雄文学の再検討
基盤研究(C)	19510268	姫岡 とし子	800,000	240,000	ジェンダーで読む労働運動—近代化過程のドイツを中心に
基盤研究(C)	19520135	安藤 宏	800,000	240,000	近代文学関連雑誌の総合的研究
基盤研究(C)	19520136	多田 一臣	700,000	210,000	「辺境からの文学史」の研究
基盤研究(C)	19520138	長島 弘明	1,000,000	300,000	初期読本の総合的研究
基盤研究(C)	19520199	塚本 昌則	1,100,000	330,000	20世紀フランス文学における時間の探究
基盤研究(C)	19520200	金澤 美知子	700,000	210,000	「手紙」の文化に見る近代ロシア文学の成立過程—現実と虚構の間で—
基盤研究(C)	19520293	土田 龍太郎	800,000	240,000	サンスクリット大叙事詩マハーバーラタのテキスト形成史の解明
基盤研究(C)	19520386	月本 雅幸	1,000,000	300,000	「訓点資料総目録平安時代編真言宗の部」の作成
基盤研究(C)	19520621	高山 博	1,000,000	300,000	中世ドイツの統治システム~中世西欧の統治システムの比較研究~
基盤研究(C)	20520044	丸井 浩	1,100,000	330,000	現存最古のニヤヤヤ哲学綱要書『ニヤヤヤ・カリカー』の校訂テキスト作成と翻訳
基盤研究(C)	20520112	渡辺 裕	700,000	210,000	土地の記憶の生成・変容過程に関わる芸術の機能の研究
基盤研究(C)	20520278	MARIANNE SIM	900,000	270,000	19、20世紀のフランスにおける文学と絵画の関係についての総合的研究
基盤研究(C)	20520565	佐藤 信	800,000	240,000	古代日本列島における漢字文化受容の地域的特性の研究
基盤研究(C)	20520636	橋場 弦	1,200,000	360,000	古代ギリシアにおける紛争解決と公共圏の比較文化史的研究

基盤研究(C)	20529002	高橋 晃一	700,000	210,000	『瑜伽師地論』とアビダルマ仏教の思想的関連について
基盤研究(C)	20529003	藤崎 衛	1,000,000	300,000	中世ローマ教皇庁のユダヤ人認識に関する研究
基盤研究(C)	20530658	瀬山 淳一郎	700,000	210,000	不気味の谷の実験心理学的研究
基盤研究(C)	21520076	竹下 政孝	2,100,000	630,000	現代中東における近代以前イスラーム思想の権威的テキストの受容と影響
基盤研究(C)	21520181	渡部 泰明	700,000	210,000	中世和歌東西交流史の研究
基盤研究(C)	21520314	野崎 敏	1,100,000	330,000	フランス文学と映画の相関関係についての総合的研究
基盤研究(C)	21520428	重藤 実	900,000	270,000	ドイツ語史における開始相表現の変化
基盤研究(C)	21520468	肥爪 周二	800,000	240,000	平安・鎌倉時代の真言・陀羅尼資料に見える連音変化現象の研究
基盤研究(C)	21520767	今村 啓爾	1,200,000	360,000	新資料の激増に対応する初期銅鼓研究の全面的再検討
基盤研究(C)	21520768	早乙女 雅博	700,000	210,000	関野貞による朝鮮古蹟調査の再検討
若手研究(スタート)	20820012	吉田 聡	1,010,000	303,000	現象学的分析と言語分析との融合による自我の研究
若手研究(スタート)	20820013	河野 龍也	1,200,000	360,000	佐藤春夫のジャンル意識とナショナルアイデンティティに関する研究
若手研究(スタート)	20820014	畑 浩一郎	1,200,000	360,000	19世紀フランス文学における他者の表象
若手研究(スタート)	20830020	富江 直子	730,000	219,000	「生存権」の歴史社会学
若手研究(スタート)	21820011	野田 美季(渡辺美季)	1,080,000	324,000	家譜から見た近世琉球の国際関係と東アジア
挑戦的萌芽研究	19650061	佐藤 隆夫	800,000	0	アジアゾウの知覚・認知の実験的検討
挑戦的萌芽研究	21653060	唐沢 かおり	800,000	0	問題解決場面における社会心理学方法論拡張の可能性:個人焦点の方法論を越えて
若手研究(B)	20700022	紙名 哲生	1,300,000	390,000	効率的な高信頼性ソフトウェア開発のためのプログラミング言語の研究
若手研究(B)	21720022	青柳 かおる	1,900,000	570,000	現代イスラームの生命倫理と古典思想の関係
若手研究(B)	21720044	太田 峰夫	700,000	210,000	二重帝国における音楽のナショナリズムと民族誌研究—ハンガリーの事例を中心に
若手研究(B)	21720228	谷口 美穂(川越美穂)	1,300,000	390,000	近代初期君主親裁体制にみる内閣の性格に関する研究—前近代と清朝との比較検討から—
若手研究(B)	21720253	五十嵐 大介	1,300,000	390,000	中世アラブにおけるイスラーム寄進制度(ワクフ)の社会的機能
若手研究(B)	21720254	濱本 真実	1,200,000	360,000	タートル人ネットワークと中央ユーラシアの近代化
若手研究(B)	21720255	河原 弥生	1,400,000	420,000	18—19世紀中央アジアにおけるタリカとムスリム地域社会の形成に関する研究

(2) 奨学寄附金

2008(平成20)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
島藺 進	財団法人 上廣倫理財団	30,000,000	上廣死生学講座の運営
島藺 進	財団法人 上廣倫理財団	2,000,000	「日本人の死生観と倫理観」研究のため
木下 直之	松下電器産業(株)	2,000,000	文化資源学公開講座「市民社会再生～文化の射程～」
木村 英樹	(株)半導体エネルギー研究所	4,000,000	中国語の文法および談話の構造に関する研究
藤崎 衛	財団法人 日本科学協会	400,000	11世紀から13世紀におけるローマ教皇庁の組織と人的構成の動態分析
六反田 豊	財団法人 住友財団	1,000,000	東京大学 コリア・コロキウム事業に対する助成
小松 久男	財団法人 三菱財団	2,500,000	近現代中央アジアにおけるイスラームと政治権力
柳橋 博之	財団法人 JFE21世紀財団	1,500,000	イスラーム世界における法学派の権威に関する研究―「讚」を主たる資料として
松山 聡	小山 富士夫	3,000,000	ローマ時代別荘遺跡(アウグストゥスの別荘)の考古学的研究のため
末木 文美士	財団法人 克念社	500,000	「仏教特に日本仏教の研究」に対する助成
近藤 和彦	財団法人 福武学術文化振興財団	1,150,000	近代イギリスにおける私益と公共性

2009(平成21)年度

受入れ教員	寄附者名	寄附金額(円)	寄附目的
島藺 進	財団法人 上廣倫理財団	30,000,000	上廣死生学講座の運営
武川 正吾	財団法人 日本経済研究奨励財団	400,000	東アジアの地域統合と共通社会政策の可能性に関する研究のため
島藺 進	財団法人 上廣倫理財団	2,000,000	「日本人の死生観と倫理観」研究のため
木下 直之	パナソニック(株)	2,000,000	文化資源学公開講座「市民社会再生～文化の射程～」
六反田 豊	財団法人 住友財団	1,000,000	「コリア・コロキウム」事業に対する助成
川原 秀城	財団法人 武田科学振興財団	500,000	朱丹溪六鬱説に残された心身問題をめぐって―一曲直瀬道三『啓迪集』の言説から― に対する2009年度杏雨書屋研究奨励として
下田 正弘	人文情報学研究所	2,200,000	次世代大蔵経研究を支援するため
大西 克也	財団法人 三菱財団	2,600,000	岳麓書院秦簡の基礎的研究のため
長島 弘明	雄松堂アーカイブズ株式会社	48,510	国文学研究室所蔵和漢古典籍の研究
丸井 浩	財団法人 克念社	500,000	文学部インド哲学仏教学研究室の「仏教特に日本仏教の研究」に対する助成

(3) グローバルCOE「死生学の展開と組織化」

2007年度より5年間の計画でグローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」(Development and Organization of Death and Life Studies)の支援を受け、教育研究拠点形成活動を行っている。これは、「国際的に卓越した教育研究拠点のための重点的支援」として選ばれたもので、2002年度から2006年度にかけて行われた、21世紀COEプログラム「生命の文化・価値をめぐる死生学の構築」(Construction of Death and Life Studies concerning Culture and Value of Life)を引き継ぐものである。

この教育研究プログラムは、死生の文化や規範が諸文明において多様な形をとってきた歴史的事実を尊重しつつ、死生のケアや意思決定、そして人間と他の動物との関係をめぐる問題など、喫緊の諸課題に対して、それをとりまく状況全体のなかで、できる限りの多様な観点を総動員して、応答しようとするものである。医療技術の進展により、死にゆく人びとのケアの場において死をめぐる伝統的文化装置が機能しなくなり、それに代わる知や制度、実践のシステムが必要とされていること、地球規模の環境問題の発生により、人間の生死の問題が他の動物や植物などとの連関なしに捉えきれなくなっていること、こうした状況の中で、哲学・倫理から、他の人文学、そして生命科学の観点までも交えて、ケア、臨床、養育、動物倫理といった領域との有機的な結びつけのもとで「死」と「生」とを一つの学問として統合的に考察する必要がいま生じている。

こうした学問的要請に応えるには、(1)世界の諸文明において死生の知や実践がいかなる形を取ってきたかについての文明史的な比較研究を進め、同時に(2)倫理や実践規範に関わる理論的哲学的考察をなした上で、(3)現代世界の新たな問題に応答しうる学知を展開・組織化しなければならない。(1)は地域の限定を超えて、思想、歴史、言語、行動文化等、人文社会科学全体が深く広く関与してきた領域であり、(2)は生命倫理をはじめとする応用倫理が直面する諸問題に死生学の立場から寄与することを目指すことを含意し、哲学、倫理学はもとより、生命科学や法学との対話も必要となる。(3)は、医療や終末ケアの問題にとどまらず広く「人を養育する場」において解決が模索されている諸課題への応答を含むことから、医学、看護学、教育学、法学等との連携が不可避である。

この拠点形成のプログラムは多方面から注目され、2007年度より次世代人文学開発センター創成部門に上廣死生学講座が設置されることとなった。グローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」は、この上廣死生学講座と連携しながら死生学の発展、充実のための諸活動を行っている。また、応用倫理プログラムとも連携しながら、教育・研究体制を作りあげてきており、市民生活と直結した領域に取り組むなかで、人文学を活性化し、次世代における人文学の展開の一翼を担おうとする意欲をもつ。欧米の死生学がキリスト教的、近代西洋文化的な前提をなかなか超えられない状況を見すえつつ、本拠点はアジア的な観点へも意識的に寄り添いつつ、より広い死生学を構築して、日本から世界への学問的発信を行おうとしている。

教育の側面では、大学院を終えて博士号を取得したPD(ポスドク研究員)を中心に博士課程の大学院生が加わり、学際的、かつ国際的な研究推進の訓練を行っている。大学や医療機関等で死生学や生命倫理を教える専門家が求められていることに応じようとするものである。まだ専攻とはなっていないが、2007年度より大学院修士課程・博士課程で本格的に死生学を学ぶことができるようになるし、学部段階のクラスも一段と充実したものとなってきており、学部・大学院双方のレベルで教育効果を上げてきている。

5 教育・研究支援組織

(1) 図書室

■蔵書数（平成22年3月末現在）

図書	1,025,861冊（うち洋書 534,197冊）
年間受入図書冊数	17,900冊（うち洋書 7,823冊）（平成21年度）
所蔵雑誌種数	12,256種（うち洋雑誌 4,318種）
年間受入雑誌種数	1,509種（うち洋雑誌 1,089種）（平成21年度）

平成8年度から本研究科・学部の予算措置による図書重点整備・充実を図っている。

■図書資料の蔵置

図書委員会の管理・運営の下で、蔵書を以下の数カ所に分散配架しているが、将来に向けて集中化が懸案となっている。

また、以下の書庫や研究室は、いずれも書架スペースの狭隘化問題を抱えている。教育・研究の基本的な要素として構築した貴重な知的財産を有効に活用し、これらを後世に引き継ぐためにも書架スペースの狭隘化を早急に解決しなければならない。

1) 2号館図書室

おもに雑誌のバックナンバー、参考図書、本研究科授与の新制（1991年度～）博士論文（課程博士）、マイクロ資料を配架。

2) 3号館図書室

研究室図書の一部と叢書全集・史資料、3号館7研究室の図書を配架。

3) 貴重書庫室（法文2号館書庫内）

宗教学宗教学・美学芸術学・日本史学・日本語日本文学（国語学・国文学）・インド哲学仏教学の各研究室の貴重書を配架。各研究室等でも相当数の貴重書を保存。

平成15年度に新貴重書庫・準貴重書庫を新設し、スペース不足は解消されたが、新・旧貴重書庫ともに、保存環境に問題が多く、保存環境整備が重要な課題である。

4) 各研究室

3号館7研究室を除く研究室の図書資料は、法文1号館・法文2号館・総合研究棟（弥生地区）、アネックス（浅野地区）、赤門総合研究棟の各研究室に配架。

5) 法文1号館書庫

稀用図書、考古学関係の発掘調査書、宗教学・社会学研究の調査資料、一部研究室の卒業論文等を配架。

6) マイクロ資料室（法文1号館書庫内）

中国思想文化学・インド哲学仏教学・日本史学・東洋史学・西洋史学・日本語日本文学（国語学・国文学）・中国語中国文学・インド語インド文学・の各研究室及び次世代人文学開発センターのマイクロ資料を配架。

■サービス対応

1) 3号館図書室

総合受付サービス窓口で、文献複写・現物貸借依頼・受付、他大学・機関への紹介状の発行、各種申請の受付、及びレファレンスサービス等を行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後9時。（短縮期間中は午前9時～午後5時）

OPAC（オンライン蔵書目録）・データベース検索用パソコン5台、複写機2台を設置。

2) 2号館図書室

サービスカウンターは、主として2号館図書室に配架された資料の貸出・返却サービスを行っている。

開室時間は、月曜～金曜の午前9時～午後6時。（短縮期間中は午前9時～午後5時）

OPAC（オンライン蔵書目録）・データベース検索用パソコン4台、複写機2台、本研究科・学部のカード目録（電子化以前に受入れた図書）を設置。

ここに本研究科・学部の図書業務（資料の受入・登録・製本・目録）を行う事務室がある。

■最近のサービス活動

本研究科・学部の遡及入力予算措置、及び全学の遡及入力事業への参加によって、平成14年度末で3

号館図書室等の遡及入力(約 37,6 千冊)が完了し、平成 16 年 1 月から 3 号館図書室の機械貸出を開始し、貸出・返却処理が迅速に行えるようになった。未だ膨大な量の未遡及資料があるが、平成 15 年度から特殊文字資料(アラビア文字・ハングルなど)の遡及入力が可能になり、学部予算及び国立情報学研究所の事業への参加により遡及入力が進行中である。平成 15 年度の附属図書館図書受入業務システムの導入によって、図書受入業務の効率化・資料の管理対策、及びサービスの促進・拡大が図れた。平成 20 年度以降、現物貸借の拡大や ASK、e-DDS サービスの導入など利用者サービスを順次拡充している。平成 22 年度からは 2 号館図書室の開室時間を 1 時間延長した。

(2) 漢籍コーナー

漢籍コーナーは、文学部研究室が所蔵する「漢籍」(中国前近代資料)を集中配架、共同利用するために 1967(昭和 42)年法文 2 号館 2 階に設置された(利用開始は 1970 年)。2004 年 2 月に赤門総合研究棟 6 階に移転し現在に至っている。中国思想文化学・中国文学・東洋史学・インド哲学仏教学・言語学・韓国朝鮮文化研究室などが所蔵・購入する漢籍を受け入れ、現在の蔵書数は 10 万冊を超える(一部日本、朝鮮関係資料などを含む)。その中には孤本、稀覯本など貴重な資料が多数含まれており、小倉文庫(朝鮮語資料・朝鮮漢籍)、瀧田文庫(日本禅籍)といったコレクションも収蔵している。

漢籍を伝統的四部分類法で配列した書庫と貴重書を別置した貴重書庫の他、参考図書や利用者用 PC、複写機などを備えた閲覧室があり、研究・教育・学習の場として活用されている。漢籍は中国学のみならず様々な学問分野において研究資料となるものであり、それ故漢籍コーナーの利用者も中国学専攻者に限定されず、多様、広範囲である。他学部、他部局、学外から利用者も多く、特に近年は遡及入力が進められ OPAC、Web-Cat での図書検索が可能になってきたことで外部利用者が増加している。

運営・管理は中国思想文化学・中国文学・東洋史学・インド哲学・韓国朝鮮文化・言語学研究室の代表教員などで構成される漢籍コーナー運営委員会が行い、業務全般は助手が担当している。

2008～9 年度の状況としては、まず蔵書面では、関連研究室の購入図書や科研費購入図書を受け入れたほか、他大学・他機関からの寄贈図書もあり、蔵書数は 2 年間で 3,000 冊以上増加した。また、蔵書保全として学部の支援を得て一部ではあるが貴重書を中心に図書補修を行うことができた。目録関係では、文学部図書室によって所蔵図書データの OPAC 遡及入力が進められているほか、渡辺純成氏(東京学芸大学)が漢籍コーナー所蔵満洲文書籍の整理と目録作成が行い、その成果が「東京大学文学部漢籍コーナー満洲文書籍目録」として公刊された。施設面では、利用者用 PC の更新、増設などを行った。

これだけの量と質を備えた漢籍専門図書室を学部内に持つのは全国でも稀であり、明治以来の中国学の伝統がありアジア研究に力を入れてきた本学部ならではの特色ある施設である。今後も引き続き文学部の研究教育拠点として整備、充実に努めていくが、出版数の増加、電子化資料の普及など「漢籍」の状況も変化しており、また Web 検索や利用者(特に外部利用者)の増加など漢籍コーナー自体の状況も変化してきている。こうした状況の変化の中、漢籍コーナー自体の整備・充実にともに、漢籍という貴重な文化資産を保全し、なおかつそれを文化資源として研究・教育に活用していくという二つの責務をどう両立させ果たしていくかが今後の課題となるだろう。

助手 **石川 洋** ISHIKAWA, Hiroshi

1. 略歴

- 1986 年 3 月 東京大学文学部東洋史学専修課程卒業
- 1986 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程入学
- 1989 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻修士課程修了
- 1989 年 4 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程進学
- 1994 年 3 月 東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得のうえ退学
- 1994 年 4 月 東京大学文学部助手
- 1995 年 4 月 東京大学大学院人文社会系研究科助手

2. 主要研究業績

(1)論文

「アナキストと歴史——李石曾・劉師培・師復——」、『中国哲学研究』（東京大学中国哲学研究会）第24号、2009.11

(2)史料

渡辺純成・東京大学文学部漢籍コーナー「東京大学文学部漢籍コーナー満洲文書籍目録」、2010.1

3. 主な社会活動

(1)他機関での講義等

関東学院大学非常勤講師（法学部教職課程外国史担当）、2008・2009

講演会、「東京大学文学部漢籍コーナーの漢籍について」、東京大学東洋文化研究所主催講演会「初めての漢籍」、2009.11.11

(3) 視聴覚教育センター

視聴覚教育センターは、総合図書館の5階にあり、本研究科・学部の視聴覚設備の整備、視聴覚機器やパソコンを必要とする教育・研究のサポート、語学教材や映画・古典芸能等の音声・映像資料の作成・収集、本研究科で行われるさまざまな講演やシンポジウム等の録画とアーカイブ化を行っている。また当センターで作成した音声・映像資料は、全学の学生・教職員の利用に供している。

2008 - 2009年度の事業報告としては、まず2009年4月より、視聴覚教育センターが、本研究科・学部の教育研究情報管理室の分室として位置づけられ、教育研究情報管理室・情報メディア室・大学院係・教務係等とより緊密な連携をはかり、本研究科・学部全体の教育研究体制を見渡しながら、視聴覚面での研究・教育に貢献してゆく環境が整えられたことがあげられよう。また、インターネットを利用した授業への要望も高まっており、情報メディア室との連携が強化されたことは、視聴覚教育センターのセキュリティ管理体制構築のためにも重要な改善点であった。

また2009年度には、国の補正予算による財政支援も得て、視聴覚教育センター内の教室の大改修を行った。これは、センター第1第2教室と称していた2語学教室(各25名収容)を、設置されていたLL装置が20年も前に導入されたカセットタイプ式のもので、近年ではあまり利用されなくなっていたため、仕切りの壁を撤去して50名収容の1教室(これを今後「視聴覚教育センター第1教室」と称する)に改修し、床はOAフロアとし、OHCやプロジェクターを導入して、語学教室としてだけでなく、多目的な用途に利用できる演習室としたものである。これにより、さまざまな視聴覚資料を活用した講義・演習・研究会等が可能になったばかりでなく、近年ニーズが高まっている、学生のプレゼンテーション・スキルの向上にも資することができる。なお、この第1教室も全学の教職員の利用が可能であり、そのことは本研究科・学部のHP等にも明記している。

以上はこの2年間の特筆すべき事項であるが、以下には視聴覚教育センターの恒常的業務について報告する。

視聴覚教育センターは、1964年、図書館の「総合化」の一環として、語学教育と非文字資料の収集を行うことのできる施設の設置・運営が文学部に委託されて発足したものであり、以来今日まで、6,200点にもおよぶ音声・映像資料を蓄積している。語学教材をも含むこれらの資料は、授業で利用されているほか、センター内の自習室において、全学の学生・教職員の利用に供している。CDやDVD等が一般家庭にも普及しているためか、近年センターの音声・映像資料の利用は低下しているが、それでも2008年度は806人(内他学部・他研究科の学生・院生307人)、2009年度は549人(同102人)の利用があった。

また視聴覚教育センターでは、本研究科で行われるさまざまな講演やシンポジウム等の録画を行っているが、2008 - 2009年度は、G-COE「死生学の展開と組織化」で開催されたシンポジウム、布施学術基金による講演、退職教授の最終講義、ホームカミングデーの企画等のほか、ノーベル賞作家のル・クレジオ氏と仏文研究室の中地教授との対談(2009年11月29日)等、内外の著名な講師を招いての講演やシンポジウム等の収録を行った。ただし、人手不足のため、これらの貴重な映像資料の整理・アーカイブ化まではなかなか進んでいないのが現状である。

さらに視聴覚教育センターの重要な業務に、法文1・2号館の教室に備え付けられた視聴覚機器の保全と、それらの機器を利用した授業のサポート(新学期当初、機器の扱いに不慣れた教員に技術指導をしたり、

機器の故障に対応したり)があるが、とくに法文1号館の機器類は、予算の都合で継ぎ足しを重ねてきたため、教室相互の整合性がない上に、老朽化が進んでトラブルが頻発しており、今後の大きな課題となっている。

(4) 認知科学研究室

1946年に本学の航空研究所が廃止され、その航空心理部門が文学部に移管されて、能率研究室に改組された。その後、1992年に改称されて現在の認知科学研究室となっている。

能率研究室は、当初、心理学研究室の教官1名が兼任し、助手1名と共に、作業適正や職務分析を中心とした応用心理学の研究を行っていた。1954年に助手の定員割り当てがなくなり、以後、心理学研究室の内部組織として運営されてきた。認知科学研究室となってからも、同じ形態で運営されている。

心理学研究室は、実験心理学を心理学の基礎領域として教育・研究の中心に据えてきたが、同時に、応用心理学の名のもとに周辺科学との交流を展開していた。初期の能率研究は、応用実験心理学の象徴のような領域であった。しかし、サイバネティクスやコミュニケーションの研究が始まって、学際性が強く意識されるようになると、基礎と応用を対立的に捉える考え方は次第に廃れていった。

1960年代に入ると、心理学では、情報処理アプローチが興隆し、認知心理学という分野が成立した。知覚心理学や学習心理学も、認知心理学との関連で再体制化されるようになり、その一方で、認知心理学は、コンピューター・サイエンス、神経科学、言語学、哲学などと共に認知科学と呼ばれる新たな学際領域を形成するようになった。心理学研究室における教育・研究活動も認知科学と密接な関連を持つようになったため、認知科学研究室と改称することになった。

現在、心理学研究室に所属する教員は、認知心理学を専門とする2名を含め、全員が認知科学と深い研究上の関連を持っており、認知科学の他領域とも連携をとりながら教育・研究活動を行っている。高度に情報化した現代社会においては、人間が行なう情報処理を解明する必要性はいよいよ高くなってきており、認知科学研究室の担う役割も大きなものになってきていると言えよう。

(5) 国際交流室

1975年(昭和50年)4月、年々増加する外国人留学生に対応するため、文学部に「外国人留学生相談室」が開設され、留学生指導担当の外国人留学生アドバイザーが就任した。当時、東大の中でこのような施設を有していたのは、文学部のみであった。その後、国際交流の気運が高まるにつれ、全学レベルで国際交流委員会が設置された。これにともない、1985年(昭和60年)に、「外国人留学生相談室」は「国際交流室」と改称されて、文学部の国際交流委員会に所属することとなった。また、1992年4月には日本語教育が開始された。

2009年4月現在、国際交流室は、留学生指導担当講師1名、日本語教育担当専任講師1名、同非常勤講師2名及び事務補佐員2名の計6名で構成され、人文社会系研究科・文学部に在籍する156名の外国人留学生ならびに2008年及び2009年度に在籍した合計58名の外国人研究員に対して、研究・修学に関する一般的な指導と助言を行うとともに、日常生活上のさまざまな相談にも応じている。

2009年4月現在、人文社会系研究科の博士課程に65名、修士課程に31名、研究生として53名、文学部に学部正規生7名の外国人留学生が在籍している。国籍・地域別にみると、その数は29ヶ国に及び、人数の内訳は韓国62名、中国37名、台湾15名、アメリカ合衆国8名、マレーシア及びロシア各3名、イタリア、ウクライナ、ドイツ及びフランス各2名、イギリス(香港)、イスラエル、イラン、インドネシア、エジプト、オーストラリア、オーストリア、キルギス、スイス、スリランカ、セルビア、中国(香港)、トルコ、ニュージーランド、パラグアイ、ハンガリー、フィンランド、ポーランド及びモンゴル各1名となっている。

人文社会系研究科における留学生の多様化に対応するため、国際交流委員会及び国際交流室が対処しなければならない課題は、多数ある。現在に至るまで、国際交流委員会及び国際交流室はこれらの課題に取り組んできたが、未解決の難問は少なくない。以下に、それらの課題の一部を列挙しておく。

1. 留学生受け入れのための規則の改正（定員等）、指導教員の負担の問題。
2. 宿舍確保の問題、奨学金問題の改善。
3. 帰国留学生へのアフター・ケア及びその準備段階としての留学生に関するデータの整理、留学生の組織化、同窓会名簿の作成、同窓会海外支部作り等。
4. 日本語教育の充実、日本語担当教員の定員増。

[国際交流室日本語教室の活動]

大学院人文社会系研究科に属する外国人留学生の日本語教育に関する業務を行っている。具体的には新規の外国人研究生に対する学力試験の実施、日本語のクラス授業、個人指導、作文集の作成、日本語関係の図書等の管理等に当たっている。

主な活動である日本語のクラス授業は年2回（夏学期、冬学期）の研究生募集時期に合わせて補講授業として開講している。大学院の講義に合わせた時間帯で実施しており、年によって多少の変化はあるが、それぞれ独立した科目を週1コマずつとし、学生が受講しやすいように配慮している。また、夏には1週間の集中授業を行い、平常の授業を受講できない学習者にも受講機会を与えている。

学習レベルについては、当研究科の性質上、高度の文献研究に資することを目的とし、中級レベル以上の学習者を対象としている。非常勤講師を含め、講師3名が必要に応じて会議を持ち、連携して指導に当たっている。

受講者は大学院人文社会系研究科・文学部に属する外国人研究生、大学院生が中心であるが、レベルが合うクラスがあれば、当研究科所属の外国人研究員、外国人教師及び学生や研究員の家族も受け入れている。また、時には所属の異なる研究科の外国人研究生の聴講を許可することもある。

講師 **寺田 徳子** TERADA, Noriko

1. 略歴

1972年 3月	立教大学文学部史学科卒業
1978年	朝日カルチャーセンター日本語講師養成講座修了
1980年	日本語教育学会日本語講師養成講座修了
1980年 4月	日本語教育学会日本語講師養成講座教務担当 ～1981年 3月
1980年 9月	国際学友会日本語学校非常勤講師 ～1983年 9月
1980年 10月	拓殖大学語学センター日本語コース非常勤講師 ～1983年 9月
1983年 10月	マドラス大学印日センター客員教授（国際交流基金より派遣） ～1986年 6月
1986年 8月	アジア学生文化協会留学生日本語コース非常勤講師 ～1989年 3月
1986年 9月	外務省アジア太平洋地域外交官日本語研修計画非常勤講師 ～1989年 7月
1989年 4月	大東文化大学別科非常勤講師 ～1992年 3月
1989年 9月	国際交流基金日本語国際センター外交官コース非常勤講師 ～1997年 6月
1992年 4月	東京大学文学部・人文社会系研究科講師 ～現在

2. 主な研究活動

主要業績

著書 『しっかり学ぼう日本語基礎』 山下暁美氏と共著・双文社 467頁 1997.

3. 主な教育活動

- (1) 日本語教育に関する業務一般
 - 1) 日本語授業の授業計画の作成
各学期の授業及び集中授業の計画を作成する。
 - 2) 新規外国人留学生への学力試験の実施

当研究科の外国人研究生の日本語力をはかるため、当日本語教室独自の試験を実施している。

3) 個人指導

日本語の勉強に関して、個人的に指導する。日本語の授業を受講していなくても、留学生として在籍している学生は利用できる。取り扱う内容は日本語に関することなら、授業に関する質問から、小説の読解、レポートの添削まで様々である。

4) スピーチ発表会の開催

「口頭表現」授業の発表の場として、1993年度より夏学期にはスピーチ発表会を開催している。日頃日本人と個人的に接触する機会が少ない留学生の場合には、日本人との交流の場となり、日本人にとっては留学生の心境を知るよい機会となることを期待している。ただし、2003年度は都合により、開催を見合わせた。

4) 作文集の作成

年度末に教室の受講生や投稿者による作品を編集した作文集『ぎんなん』を発行している。以前は学期ごとの発行であったため、最新号は24号である。

5) 講師会の開催

日本語の授業では、それぞれの授業の担当者の連携が大切であるため、定期的に非常勤講師と話し合う講師会を開き、そこで話し合ったことを授業計画に生かすようにしている。

6) その他

日本語の図書、テープ等の貸出、学習の相談。

(2) 日本語授業

授業は日本語のレベル別に10クラス開講されており、下記以外の授業は非常勤講師が担当している。専門分野と並行して受講する学生のために柔軟な対応を心がけている。

1) 平常授業

学期ごとに行う。2009年～2010年の担当科目は以下の通りである。

- ① 読解Ⅰ 中級レベルの読解能力の養成と初級知識の復習、定着を目的とする。特にレポート・論文に必要な語彙・文法の定着、文型の応用に力を入れている。
- ② 読解Ⅱ 読解Ⅰを発展させる形で、論理的な長い文章に慣れ、書き言葉や漢字語彙を身につけることをめざす。
- ③ 文章表現Ⅰ 日本語で文章を書いた経験の少ない学生に、作文の基本的な知識と、研究に役立つ文章の書き方を指導する。
- ④ 文章表現Ⅱ 文章表現Ⅰを修了したレベルの学生に、論文、レポートの書き方等、アカデミックライティングの指導を行う。
- ⑤ 漢字学習 非漢字圏の学生はもとより漢字圏の学生も対象とし、日本語としての漢字の読み書き、漢字語の使い方等を定着させる。
- ⑥ 文法 基本的で混乱しやすい文法事項、正しい文の書き方、文章によく使われる文型等を指導する。(夏学期のみ。)
- ⑦ 読解Ⅳ 外国人研究生の大半が大学院への進学をめざしていることから、受験のために読解問題の指導を行う。(冬学期のみ)

2) 夏期集中授業

例年夏休みに5日間、全体で6科目を開講しているが、担当した科目について記す。

2008年度 ① 日本文化を読む 日本の文化、社会、言語、美意識などについて書かれた文章を読み、内容について論じた。

② 文章表現 読みやすい文章の書き方、要約文、意見文の書き方などについて、解説し、指導した。

2009年度 ① 口語文法 日本文でよく使われ、日本語能力試験の試験問題にも取り上げられる文型の意味と使い方を具体的に指導した。

② 文章表現 口語文法で習った文型を取り入れながらの作文、要約文、比較文、手紙文の書き方などを指導した。

◇ 主要学内委員

講師 **安田 京子** YASUDA, Kyoko

1. 略歴

1978年3月	早稲田大学法学部卒業
1981年6月	ハーバード・ロー・スクール LL. M. コース修了
1991年2月～1994年3月	東京大学留学生センター留学生相談室非常勤相談員
1996年4月～1997年3月	東京大学文学部国際交流室教務補佐員
1997年4月	東京大学文学部講師（外国人留学生アドバイザー）

2. 主な教育活動

(1) 留学生等相談関係

1) 勉学関係

大学院進学に関する相談、休学に関する相談、入学希望者の来室・電話・手紙・e-mail 等による相談、教官からの大学院研究生及び外国人研究員受け入れに関する相談、国費留学生の転学、転科、帰国に関する相談、等

2) 生活関係

奨学金に関する相談、授業料納入に関する相談、宿舎に関する相談、ビザ取得及びビザ変更に関する相談、精神的問題に関する相談及び専門家へのリファー等

(2) 教務関係

1) 留学生全般関係

外国人留学生名簿作成、奨学金申請用紙の配布及び申請の取りまとめ、各種留学生用宿舎の入居申請書の配布及び申請の取りまとめ、見学旅行・懇親会の通知発送及び参加申し込みの取りまとめ、等

2) 大学院外国人研究生関係

入学願書配布及び受け付け、審査結果通知発送、入学手続き（4月及び10月）、入学ガイダンスの実施（4月及び10月）、研究期間延長手続き、研究事項証明書発行、チューターの選定依頼及びその取りまとめ、等

3) 国費留学生関係

大学推薦・国内採用による国費留学生の申請手続き、各種手続き等

4) 外国人研究員関係

外国人研究員の申請受け付け・許可証明書及び身分証明書の発行、研究者用宿舎の入居申請書の配布及び申請の取りまとめ、等

(3) その他

外国人留学生・外国人研究員との懇親会（6月）、外国人留学生見学旅行の引率（11月）、国費留学生及び学習奨励費受給者の在籍簿取りまとめ（毎月）、在留資格認定証明書交付申請用紙の配布及び取りまとめ、資格外活動申請用紙の配布及び取りまとめ、等

◇ 主要学内委員

国際交流委員会オブザーバー

(6) 情報メディア室

l_cnc@l.u-tokyo.ac.jp

WEB : <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/MediaCenter/>

情報メディア室は、文学部の計算機システムおよびキャンパス LAN の運用管理を行うことを目的とし

て、1996年に設立された。現在、情報メディア室では、次の2つの業務を行っている。

1. 文学部内の情報システムに関する運用管理
2. 多分野交流演習事務局

1. 情報システムの運用管理

情報メディア室は、視聴覚センターと協力して、文学部の教育・研究用計算機システム、キャンパス LAN システムの運用管理を行っている。

1) 教育・研究用計算機システムの運用

文学部は、教育研究用計算機システムとして、IBM eServer×2台、Sun Enterprise Server×1台、Sun Ultra WS×3台、HP ProLiant Server×2台を管理・運用し、文学部・大学院人文社会系研究科構成員に対して、電子メールサービス、ホームページサービスをはじめとする一般的なアカウントサービスを提供している。本システムは、約500ユーザを抱えている。

2) 文学部 WWW サーバの運用

情報メディア室では、文学部全体の WWW サーバシステムの運用を行っている。WWW サーバからは、事務局や広報委員会、また個々の各研究室・教官・学生からの発信情報があり、これらに対して共通の情報発信システムを提供している。

3) 文学部 LAN の NOC (Network Operation Center) 機能

情報メディア室では、文学部のネットワーク運用センター (NOC: Network Operation Center) 機能として、以下の業務を行っている。

- (a) 基幹ネットワークの良好な通信状態の維持
- (b) webmaster/postmaster 機能
- (c) ネームサーバの運用
- (d) DHCP による IP アドレス自動割当サービス
- (e) 電話アクセスポイントサービス

を行っている。

(a) 基幹ネットワークの運用

情報メディア室では、文学部の構成員が居住する主要な建物である、法文1号館、法文2号館、文学部3号館、農学部総合研究棟、アネックス、赤門総合研究棟におけるローカルエリアネットワークの基幹部分（研究室や教官居室の外部）の管理運用を担当している。これらの建物における、物理的なネットワーク配線、ネットワーク通信を中継するために設置されたハブやスイッチなどの機器を運用管理し、研究室からキャンパス LAN である UTnet までの通信経路における良好な通信サービス提供のための活動を行っている。

(b) webmaster/postmaster 機能

情報メディア室では、広報委員会および事務局と協力し、インターネット上の文学部の問い合わせ、苦情等の窓口業務を行っている。文学部が提供する各種情報に関する問い合わせは、web-master@l.u-tokyo.ac.jp 宛に届くことが多い。このメールを、学部内の担当部署への転送、広報委員会への連絡業務を行っている。また、セキュリティ上の問題や、文学部内から外部に向けてなんらかの被害をもたらす動作を行った場合の苦情等は、postmaster@l.u-tokyo.ac.jp 宛に届くことが多いが、ここに届いた連絡事項の対応も行っている。

(c) ネームサーバサービス

文学部 LAN が機能するために必要な、ネームサーバ (DNS: Domain Name Server) の運用を行っている。

(d) DHCP による IP アドレス自動割当サービス

文学部 LAN に接続するコンピュータに対して、IP アドレスの自動割当サービスを、すべての建物において実施している。これによって、コンピュータに明示的なアドレス割当を行わなくとも、文学部 LAN に接続して利用できる利便性を提供している。

(e) 電話アクセスポイントサービス

文学部 LAN に対して、自宅等から電話回線によってアクセスする環境を提供している。現在、ISDN、PHS (PIAFS32, PIAFS64)、56K アナログモデムによるアクセスを提供している。

4) 文学部 LAN の NIC (Network Information Center) 機能

情報メディア室では、文学部 LAN のネットワーク情報センター (NIC: Network Information Center) 機能として、l.u-tokyo.ac.jp 以下のドメイン名割当管理、IP アドレス割当管理を行っている。

5) セキュリティ対応

近年、大学内もインターネット経由による不正アクセス等が多くあり、学部内でも多くの被害がでている。そのため、

- ・文学部のメールサーバにウイルスチェックソフトウェアを導入し運用
- ・文学部 LAN 全体を囲むファイアウォールを設置・運用
- ・各種セキュリティ対策情報を学部内に配布

など、セキュリティ対応業務を行っている。2009 年度においては、上記ファイアウォールの老朽化に伴う入れ替え作業を行った。

6) 文学部内の研究活動支援

情報メディア室では、文学部構成員全体への情報サービスだけでなく、文学部の各教員の研究教育活動の支援として、各研究プロジェクトの情報発信支援、研究用コンピュータの運用管理、連絡用のメーリングリストの提供なども積極的に行っている。

7) 文学部内データセンタの運用

各教員の教育実績や研究業績をまとめ、点検評価に用いるためのデータベースシステムの運用管理を行っている。

2. 多分野交流演習事務局

情報メディア室では、多分野交流演習の事務局を担当し、多分野交流演習の予算管理・執行業務、多分野交流演習室の予約管理、多分野交流演習ニューズレターを定期的に発行している。

3. 助教の活動

助教 **紙名 哲生** KAMINA,Tetsuo

1. 略歴

在職期間 2006 年 4 月—2010 年 3 月

研究領域 プログラミング言語・ソフトウェア工学・ユビキタスコンピューティング

過去 2 年間の主要業績 (2010 年 3 月現在)

- ・ T. Kamina and T. Tamai: Flexible Object Adaptation for Java-like Languages. In Proc. FTfJP'08, pp.63-76, 2008.
- ・ T. Kamina, N. Koshizuka, and K. Sakamura: Embedding Legacy Keyword Search into Queries for the Ubiquitous ID Database. In Proc. NBiS2008, vol.5186 of LNCS, Springer, pp.263-272, 2008.
- ・ T. Kamina and T. Tamai: Lightweight Dependent Classes. In Proc. GPCE'08, ACM, pp.113-124, 2008.
- ・ K. Miyamoto, T. Kamina, T. Sugiyama, K. Kameyama, K. Toraiichi, and Y. Ohmiya: A Function Approximation Method for Images with Grading Regions. International Journal of Images and Graphics, vol.9, no.1, pp.101-119, 2009.
- ・ T. Kamina and T. Tamai: Towards Safe and Flexible Object Adaptation. In Proc. COP'09, ACM, article no.4, 2009.
- ・ T. Kamina and T. Tamai: A Smooth Combination of Role-based Languages and Context Activation, In Proc. FOAL2010, pp.15-24, 2010.

6 情報化と広報

(1) IT化

人文社会系研究科・文学部の情報化（IT化）は過去2年間着実に進歩した。まず、標準実績データベースの導入により、各教員の業績管理が統一的行われるようになった。これは、教員および事務局の時間の節約だけでなく、紙の使用量の削減にも大いに役立っている。さらに、Webサイトを持つ研究室の数も着実に増え続け、アクセス数は増加の一途をたどっている。

IT化の負の側面としては、迷惑メールやウイルスメールなどの問題があるが、情報メディア室を中心として防御体制を固めており、これまでのところサーバに大きな被害を受けることはなかった。また、本部・情報基盤センターで進めている全学迷惑メール対策プロジェクトに協力し、今後の人文社会系研究科・文学部における新たな迷惑メール対策について検討を進めた。

(2) 広報活動

人文社会系研究科・文学部の広報活動は広報委員会が中心になって行っている。主な活動は、1) ホームページの管理運営、2) 文学部進学者のための『進学ガイダンス』『進学のためのガイダンス』の作成、3) 教育・研究年報(隔年)の作成、4) 高校生向けのオープンキャンパスの企画・実行、5) ホームカミングデーの企画・実行、6) 文学部新聞の発行、7) 大学院パンフレットの作成、8) 全学広報委員会との連絡、などである。

広報委員会の活動は、参加者増加の一途をたどっているオープンキャンパスの企画・運営や、諸種の刊行物の発行、ホームページの充実など、ますます多岐にわたっている。

<2008・2009年度オープンキャンパス企画>

2008年度

参加者数：見学ツアー230名、模擬講義480名、質問コーナー・著書展示220名、総計930名（いずれも概数）

- 企 画：1. 文学部の概要説明
2. 模擬講義 清水哲郎(上廣死生学講座) 「死に直面した時の希望」
藤原克巳(国文学) 「源氏物語の深さと美しさ——紫の上について——」
池澤優(宗教学宗教史学) 「漢字と宗教」
3. 文学部見学ツアー
「言葉たちの森へ」(言語学研究室、ドイツ語ドイツ文学研究室)
「知よ、越境せよ」(西洋史学研究室、倫理学研究室)
「社会と文化の動態」(社会学研究室、文化資源学研究室)
4. 質問コーナー (文学部教員及び学部学生)
5. 教員著書展示

2009年度

参加者数：見学ツアー250名、模擬講義665名、質問コーナー・著書展示285名、3番大教室公開475名、総計1675名（いずれも概数）

- 企 画：1. 文学部の概要説明
2. 模擬講義 野崎 敏 (フランス語フランス文学) 「フランス文学への招待」
赤川 学 (社会学) 「人口減少社会をいきる」
佐藤 康宏 (美術史学) 「昔の女——絵画の解説」
3. 文学部見学ツアー
ツアー①美学芸術学研究室、三号館図書室
②三号館図書室、日本史学研究室
③英語英米文学研究室、三号館図書室

④三号館図書室、次世代人文学研究センター

4. 学部学生および院生との質問コーナー
5. 所属教員著書展示コーナー
6. 3番大教室公開（ネット講義放映）

7 公開講座

(1) 布施学術基金公開講演会

布施学術基金公開講演会「東洋の文化」第16回、第17回

布施学術基金公開講演会は、故布施郁三博士から人文社会系研究科・文学部に寄付された布施学術基金による、もっとも中心となる事業の一つであり、「東洋の文化」の共通テーマで毎年1回開催されている。

第16回は2008年5月29日(木)午後4時～5時30分、文学部一番大教室において、本学名誉教授佐藤正英氏(倫理学)を講師として招き、「日本人の死生観—『古事記』神話をめぐって—」と題してご講演いただいた。佐藤氏は、私たちの死生観をかたちづくっているさまざまな層のなかでも、文献上最古のものとなる『古事記』をとり上げられ、とりわけイザナキ・イザナミ神話における「黄泉国」の段で語りだされている、死と生をめぐる観念を神話のすじみちに寄りそって再吟味されるところから、私たち日本人の死生観の根底にあるものの基礎構造にまで説き及んだ。

第17回は2009年5月28日(木)午後4時～5時30分、文学部一番大教室において、本学名誉教授鈴木日出男氏(国文学)を講師として招き、「光源氏について—『源氏物語』の本性」と題してご講演いただいた。氏は、折口信夫の〈色好み〉論を新たな観点から捉えなおして、魂の深部から女と交感して〈妹の力〉を引き出す能力こそが光源氏の〈色好み〉の本質であったとし、源氏がその〈妹の力〉によって無類の栄華を極めてゆくとともに、愛執の罪という宗教的問題にも直面して苦悩するさまを、物語の本文に即して解説され、『源氏物語』が、古代的な魂の世界に深く根ざしながら、同時に近代の読者の鑑賞にも堪え得る普遍的な文芸となり得ている機微を明らかにされた。

(2) 東京大学コリア・コロキウム

東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究専攻においては、教育研究活動を行うとともに、社会に対して当該地域に関する様々な情報を発信したいという希望のもとで、2003年度から標記のコロキウムを開催しています。本コロキウムは激動を続ける韓国朝鮮およびこの地域をとりまく北東アジア情勢に対応し、あらたな提案を行ってゆくために、同地域に関する理解を一層深めることが要請されるとの考えから企画されたものです。このような観点から、当コロキウムでは韓国朝鮮および周辺地域に関わるさまざまな分野の専門家、外交官、官僚、政治家、研究者、社会活動家などを東京大学に招き、忌憚の無い意見表明をお願いし、質疑応答を行うことで理解を一層深める機会を社会に向けて創出してゆくことを目的としています。講演は年に数回行っております。講演の内容については、『東京大学コリア・コロキウム講演記録』として年度ごとに発行しています。なお、このコロキウムは公益財団法人住友財団の財政的援助を受けて実施しております。2008-2009年度の開催の実績は以下のとおりです。

2008年度

第1回 2008年7月29日(火) 18時30分～20時

講演者：波田野節子氏(新潟県立大学教授)

講演題目：李光洙の第2次留学と『無情』

第2回 2008年9月24日(水) 18時30分～20時

講演者：福井玲氏(東京大学准教授)

講演題目：訓民正音の文字論的性格

第3回 2008年10月29日(水) 18時30分～20時

講演者：田中明氏(拓殖大学海外事情研究所客員教授)

講演題目：植民者(コロン)の息子の韓国観

第4回 2008年10月29日(水) 18時30分～20時

講演者：梅田博之氏(東京外国語大学・麗澤大学名誉教授)

講演題目：私の韓国語学

第5回 2009年1月28日(水) 18時30分～20時

講演者：金星奎氏(東京大学客員教授・ソウル大学校教授)

講演題目：ハングルとレオナルド・ダ・ヴィンチ

第6回 2009年2月18日(水) 18時30分～20時

講演者：安輝濬氏（ソウル大学校名誉教授）

講演題目：朝鮮王朝時代の絵画と韓日交流

2009年度

第1回 2009年12月16日(水) 18時30分～20時

講演者：和田春樹氏（東京大学名誉教授）

講演題目：日本における北朝鮮研究—東大における経験を考える—

第2回 2010年1月27日(水) 18時30分～20時

講演者：鄭承喆氏（ソウル大学校教授・東京大学客員教授）

講演題目：小倉進平の生涯と学問

第3回 2010年2月17日(水) 18時30分～20時

講演者：井上和枝氏（鹿児島国際大学教授）

講演題目：朝鮮の新女性—その希求と挫折—

(3) ところ公開講座

東京大学文学部で附属北海文化研究施設の所在する北海道常呂町（現・北見市）において2000年より公開講座を開催している。現在まで通算では13回になるが、地元自治体と共催での公開講座としては12回開催している。講師は基本的に文学部の教員であるが、一部他研究科の教員にも参加していただき、幅広い話題提供を心がけている。最近では、従来の一般向け以外に、常呂高校に於いて高校生を対象とした講演もおこなっている。（講師所属は講座開催時のもの）

◆（初回）東京大学文学部公開講座

2000年2月19日 14:00～17:00 常呂町中央公民館

「フランス文学における女性」

田村 毅（人文社会系研究科教授・研究科長）

「福岡市の弥生遺跡 金隈・野方・板付遺跡を中心に」

後藤 直（人文社会系研究科教授）

「縄文土器の縄文」

今村啓爾（人文社会系研究科教授）

「北の住まいと暖房」

大貫静夫（人文社会系研究科助教授）

◆第1回東京大学文学部公開講座

2000年7月6日 18:30～21:00 常呂町中央公民館

「歴史なしに文化なし」

松永澄夫（人文社会系研究科教授）

「鄭和とコロンブス—海洋帝国中国の成立と没落—」

佐藤慎一（人文社会系研究科教授）

◆第2回東京大学文学部公開講座

2001年3月16日 18:30～21:00 常呂町中央公民館

「インダストリーとファイナンス—日本型資本主義のゆくえ—」

稲上 毅（人文社会系研究科教授）

「絵巻の世界から考える」

五味文彦（人文社会系研究科教授）

◆第3回東京大学文学部公開講座

2001年7月13日 18:30～21:00 常呂町中央公民館

テーマ「湖と砂浜」

「湖沼の環境問題と浄化の住民運動」

似田貝香門（新領域創生科学研究科教授）

「砂浜の浸食とその対策のあり方」

磯部雅彦（新領域創生科学研究科教授）

◆第4回東京大学文学部公開講座

2002年2月23日 14:00～17:00 常呂町中央公民館

「生死の景色・仏教における時の姿」

下田正弘（人文社会系研究科助教授）

「日本美術の特質」

河野元昭（人文社会系研究科教授）

◆第5回東京大学文学部公開講座

<常呂高校特別講座>

2002年10月4日 14:35～15:25 北海道常呂高等学校

「大きな数はどれくらい大きいか」

岡本和夫（数理科学研究科教授）

<常呂公開講座>

2002年10月4日 18:30～21:00 常呂町中央公民館

「数学の伝統と現代」

岡本和夫（数理科学研究科教授）

「英語と英文学夜話（たヌキ）」

高橋和久（人文社会系研究科教授）

◆第6回東京大学文学部公開講座

2003年5月10日 16:00～19:00 常呂町中央公民館

「アメリカ文学と北海道」

平石貴樹（人文社会系研究科教授）

「誤解された芭蕉 - 「古池や蛙飛こむ水のおと」について -」

長島弘明（人文社会系研究科教授）

◆第7回東京大学文学部公開講座

2004年3月20日 15:00～18:00 常呂町中央公民館

「住民参加の地域福祉 -社会福祉法と地域福祉計画-」

武川正吾（人文社会系研究科助教授）

「<江差追分>にみる民謡と郷土意識」

渡辺 裕（人文社会系研究科教授）

◆第8回東京大学文学部公開講座

<常呂高校特別講座>

2004年11月30日 13:45～14:45 北海道常呂高等学校

「フリーターはダメなのか？」

玄田有史（社会科学研究所助教授）

<常呂公開講座>

2004年11月30日 18:30～21:00 常呂町中央公民館

「清朝皇帝の江南大旅行」

岸本美緒（人文社会系研究科教授）

「ランボーの詩と旅」

中地義和（人文社会系研究科教授）

◆第9回東京大学文学部公開講座

<常呂公開講座>

2005年9月25日 14:00～17:00 常呂町中央公民館

「ユートピアを演じること -ソ連の場合-」

石井規衛 (人文社会系研究科教授)

「イブラヒムの夢 -イスラーム世界・ロシア・日本-」

小松久男 (人文社会系研究科教授)

<常呂高校特別講座>

2005年9月26日 9:00～10:00 北海道常呂高等学校

「似ているけれど違ってる -異文化地域としての韓国-」

吉田光男 (人文社会系研究科教授)

◆新北見市誕生記念 第10回東京大学文学部公開講座

<常呂高校特別講座>

2006年12月8日 13:45～14:45 北海道常呂高等学校

テーマ「生と死を考える -21世紀COEプログラム『死生学』への招待-」

「現代日本人の死生観」

島菌 進 (人文社会系研究科教授・COE拠点リーダー)

「死について考える」

関根清三 (人文社会系研究科教授)

<北見公開講座>

2006年12月8日 18:30～21:00 北見市民会館

テーマ「生と死を考える -21世紀COEプログラム『死生学』への招待-」

「現代日本人の死生観と霊性」

島菌 進 (人文社会系研究科教授・COE拠点リーダー)

「老いと死について考える」

関根清三 (人文社会系研究科教授)

◆東京大学常呂遺跡発掘50年記念 第11回東京大学文学部公開講座

2007年11月16日 18:00～21:00 常呂町多目的研修センター

テーマ「世界遺産と常呂遺跡」

基調講演

「世界遺産について -常呂遺跡の課題-」

藤本 強 (東京大学名誉教授)

シンポジウム第一部「世界遺産の実例報告」

「私の見た世界遺産」

菊池徹夫 (早稲田大学文学学術院教授)

「中国の世界遺産 -周口店・殷墟・秦始皇帝陵など-」

飯島武次 (駒澤大学文学部教授)

シンポジウム第二部「常呂遺跡の学術的価値」

「常呂遺跡の調査研究史」

宇田川洋 (東京大学名誉教授)

「生業から見た常呂遺跡の意義」

新美倫子 (名古屋大学博物館准教授)

「新しい史跡公園の整備に向けて」

熊木俊朗 (人文社会系研究科准教授)

◆第12回東京大学文学部公開講座

<常呂高校特別講座>

2008年7月4日 13:40～14:40 北海道常呂高等学校

「自分の視点、自分の感覚、自分の言葉で参加する司法 ー裁判員制度を考えるー」

井上正仁（法学政治学研究科教授）

<常呂公開講座>

2008年7月4日 18:30～20:40 常呂町中央公民館

「人口が減っても大丈夫な社会とは？」

赤川 学（人文社会系研究科准教授）

「無分別のすすめ ー頭を空っぽにすることの大切さ」

丸井 浩（人文社会系研究科教授）

◆第13回東京大学文学部公開講座

<常呂高校特別講座>

2009年12月11日 13:40～14:40 北海道常呂高等学校

「視知覚の不思議」

立花政夫（人文社会系研究科教授）

<北見公開講座>

2009年12月11日 18:30～20:40 北見市端野町公民館多目的ホール

「小説になる・ならないルネサンス作家 ーレオナルド・ダ・ヴィンチの場合」

小佐野重利（人文社会系研究科教授）

「西行はなぜ愛されたか」

渡部泰明（人文社会系研究科教授）

